

小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録（質疑応答）

日時：令和3年10月10日 午後2時00分～午後5時18分

会場：東小学校 体育館

対象：5園全ての保護者

参加者数：18人

【質疑応答】

○参加者 くりのみの●●●と申します。

3点ほどございまして、まず1点が、先ほどの修正（案）の保育サービス拡充のところの（1）番の公立保育園における募集枠の拡大を11名から12名に増やしておりますけれども、これは残る小金井とけやきの2園において拡充、増やすつもりですか。

あと、次が今回の説明会を受けて、今度、保護者からの新たな市から回答いただいて、それに対する質問とかの募集というのは行われる予定はありますか。

次が、修繕費のところ、くりのみ保育園でいうと、今、保育園の門のところ、老朽化して、そこの修繕費も今年、園のほうから要望はしているらしいんですけども、予算が下りないということで、それに関して、もしかしたら廃園を見据えてその予算がつかないんじゃないかという疑問があるんですけども、そこはどのようなことでしょうか。

あと、最後なんです、改正案の13ページの正規職員のところ118名から91名に減ったとありますけれども、任期満了で少なくなるということで。保育士さんの人材としては、今後、別のところで使うと思うんですけども、経費削減の、全体の市の経費削減で人員の整理をするというのであれば、保育課以外のところの職員の削減ということも考えられていますかという、4点です。

○三浦保育課長 よろしいですか。答弁をお願いいたします。

○西岡市長 ご答弁に関しましては、私、部長、課長と連携をしながらご答弁をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

特別支援保育の関係は、では担当のほうから。まずは1問目。

○平岡保育政策担当課長 ちょっと事務的な部分が多いので、順番をちょっとひっくり返して、私のほうで。不足があれば市長のほうでとさせていただきます。

まず、特別支援保育枠を11人から12人に増やすというものの具体的な各園の配分

なんですけれども、けやき保育園と小金井保育園の枠を倍にするというふうに考えています。具体的には、小金井が2から4、けやきが3から6、わかたけは2のままという形で考えております。

それから、2点目の今回の修正案に対する質問の募集というところなんですけれども、今の市の考え方としましては、前回、説明会がすぐにできないことは明らかだったところから、事前にご質問を募集したという状況がありましたので、現時点では改めてこれに対してペーパーを出していただくという考え方は持っておりません。

3点目の修繕費なんですけれども、門扉の修繕費なんですけど、大変恐縮なんですけど、かなり高額な状況がありまして、課としては努力はしているんですけども、なかなかそこまでの予算として取れていないというのが現実的な問題で。名前が挙がっている園だからということはありません。

少し前になりますけれども、くりのみさんでもやはり早急に対応しなければいけない工事などは行わせていただいたことはあったかと思っておりますので、そういうようなことで修繕をする、しないを決めているということはありません。

それで、最後の人員整理のところなんですけれども、今回、確かにマイナス27人という数字が出てはいるんですけども、ほとんどの方は既に任期が決まっている方のマイナスになります。基本的に今回のこのプランによって、保育士さんの正規職員の数を減らすという考え方はなくて、ほかの園や保育課に異動してもらうことで、新しい取組や体制強化を担っていただくというふうに考えていますので、おっしゃっているような人員整理とか、保育士でない仕事をするための異動とか、そういうような考え方は持っておりません。

以上です。

○西岡市長 私から若干の補足をさせていただきます。

今日で公立保育園の保護者向け説明会を6回、今日は4回目となっております。また、市民向けの説明会を2回なので総計8回となっております。この中で修正案に関する様々な貴重なお声を伺ってまいりたいと考えておりましたので開催しております。

なお、頂いた意見シートにつきましては、私も把握をさせていただいております。なお、この説明会では、様々なお声、また、ご要望、ご批判、不安や疑問の声、いろいろなお声をいただいておりますので、まずはこの8回をしっかりと開催させていただき、その中でいろいろなお声がありますので、そういったお声はしっかり持ち帰らせていた

だいて、私どもとしては、必要な対応については、その後もしっかり取らせていただきたいというふうに考えているところでございます。

それから、緊急修繕の関係であります。これまでも限られた予算であります。空調や給排水設備、あるいは急に故障してしまったこと、あるいは緊急時の対応などの通報関係や、園児の安心・安全を守るということは大変大切なことでもありますので、その視点に立って、必要な予算につきましては措置、予算をしっかり計上させていただき対応してまいりました。

今後も令和10年3月31日、このくりのみとさくら保育園につきましては、そういう段階的縮小という方針ではあるものの、お子様をお預かりする以上、必要な修繕や経費につきましては、市長としてはしっかり計上してまいりたい、その考えには変わりはありません。

また、保育士以外の分野での職員数の適正化などについて、削減というお言葉をいただきましたが、これに取り組んでいるのかということでもあります。多様なニーズが今、基礎的自治体には求められている中にありましても、厳しい財政状況の中で市政運営を行っておりますので、いたずらに過剰に、単純に、なかなか職員数を増やし続けるということは、今できない状況です。そのような中で、会計年度任用職員の方や多様な形態、多様な働き方、正規職員だけではなくて、様々な市民の方々のお力もいただきながら市政運営を行っているところです。

一方、小金井市では市民サービスを向上させるということ。また、小金井市というこの自治体が未来に向かってしっかりと持続していけるように、行財政改革プラン2020を策定し、また現在、行財政改革プラン2025と。新しいプランの策定にこれから入ってまいります。その中で、職員数の適正化というのは大きな課題でありまして、いろいろ取り組んでいます。これまでも正確な数値を申し上げられませんが、二十数名の内部生み出しですね、いろいろな業務運営、改善・改革、業務形態の見直し、こういったことによって内部で生み出した人材を新しいニーズが求められている分野、例えば地域包括ケアシステムの分野であったり、今、特に最近ではコロナ対策の関係も非常に重要になっていますが、全体の中でやりくりをしながら新しいニーズに応えられるように内部生み出しを行いながら重点配置という対応を取りながら努力しているところです。

総体として正規職員数の数については、この私が市長に就任してからは、大体微減といいたいまいしょうか数名程度の削減状況とはなっておりますが、その中で、部と部の間の中

で減員ができた場合は、課題となっているところに人を振り向けるなど、弾力的な運用に今、全力で努めているところでございます。まずは冒頭、そのように答弁させていただきます。

○三浦保育課長 いかがですか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 では、中央の方お願いします。

○参加者 ありがとうございます。本日は市長から説明の機会をいただきまして、大変ありがたいと思っています。小金井市の市政というか、ちょっと雰囲気是直接確認させていただきたくて、ちょっと遅れてしまったんですけど、参加をさせていただきました。

私自身は、くりのみ保育園で子どもを通わせている一保護者の●●●と申しますが、通わせておりまして、いろいろと私個人だけの意見だけでもないんですけども、幾つか、これはどうなのかなという点を、ちょっと言い方は多分うまくはできないのですが、お知らせさせていただければと思います。

入っていますか。

○西岡市長 今までのご発言は聞こえていますので、大丈夫です。

○参加者 まず、ちょっと単純な疑問なんですけど、私、もともと最初のほうは待機児童数がとても多くて、希望したところではなくて福祉法人ですか、こむぎ保育園さんにお世話になってたんですけども、今のくりのみ保育園の近くというか、あったんですけども。ちょうど、歴史は長いんですけど、何か前身の保育園があったんです。それがとてもいい保育園だったので、なんか新しくなったんですね。公立で新しくしてくれて、とってもきれいな保育園だったんですね。ちょっとお庭がなかったりとか、そんなに確かに広くないとか、いろいろあるんですけど、とにかくすごく新しくして、場所も道路を挟んでではあるんですけども、ちょっと園長先生も理念的にすごく、子どものためを思っているような、とてもいい保育園だったんですけど。

そういうお話を聞いて、単純に、多分、小金井市が新しくしてくれたと思うんですけど、その多分、増築化だった園が新しくきれいに建て替えをしてもらっているんだという印象があったんですけども。今回の主な、くりのみ、その他の主な理由に待機児童は減っているしとか、あとは老築化というその施設が、それが結構、来ていて。こむぎ保育園もすばらしい保育園だと個人的には思っているんですけども、その後、ちょっと下の子しか入らなかったの、上の子を転園させて、くりのみ保育園にちょっとお世話

になる経緯があったんですけども。

くりのみ保育園に入ってきてみて、やっぱり庭園があるというのと、もうとても立派な保育園が、単純に見て、造りだとか施設、あとは、先生たちがとても意識が高いとかというのを比べて初めて分かったんですけども。

何が言いたいかという、そういうすばらしい保育園が老朽化で、申し訳ありませんみたいなのって、何かとっても、どうなんだろうと。これは保育園に対してだけの問題じゃなさそうというのは分かるんですけど、施設が古い、だからごめんなさい、お金がないんですというこの雰囲気はすごいずっと感じていてですね。ちょっと前までは、市の方向性とかいろいろあると思うんです、東京都がお金をくれなくなったとか、何かいろいろとあると思うんですけども、ご事情は。ちょっと前までは、くりのみ保育園の運協さんとかが、役員の方を立てて、5園で民営化の方向で、市の保育課の方と何かそういうお話を細かくすり合わせをしながら、ここ3年ぐらいですか、ずっとそういうのをやっていただいていたという印象があったので、とってもびっくりしています。

それに対して、一体、老築化って単純に、ほかの自治体ってどうしているのかなと思って。古くなってお金ないから、じゃあ全部、保育園も潰します、分からないですけど、何かその後、何とか文化センターとか自治体とかの施設全部、図書館も減らしますみたいなことで本当にやっているのかなというのがあるんですけども。ちょっとどうなんですかね。

ちょっと質問としてまとまってないんですけど、単純に何か不思議で。もし、この案がこのまま行くとであれば、とても残念に思っていて。せっかくこの説明会をしていただいて、どうですかね、何かとても皆さんが、分かりました、じゃあお願いします、小金井市のためだからしょうがないですよというふうに思えるかなという疑問はすごくあるんですけど。まずその点について、いかがでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。

私のほうからちょっと先に、細かいお話もあったので。

お話が出ていたこむぎ保育園さんというのは、民間の保育園さんなんですね。ちょっと歴史的な経過は、ほかの法人さんのことなので、あまり詳しくは申し上げないんですが、もともと、こむぎというお名前ではなくて、別のお名前で、別の場所でやってらっしゃったことはあったと思います。それが今、最終的に今の建物に入っているの、民間さんの場合は老朽化の場合もありますけれども、例えば定員を増やすために増築とか、

増改築などの補助もあるんですけども、それは国や都から、新しく建てるのと同じように補助金が出るんです。

一方で、公立保育園の場合は、今はそれが全く出ないという状況はあります。なので、多分、昔からの法人さんなどで市が建て替えてくれたとおっしゃったと思うんですけど、ご自身のほうで建て替えたのに。国と東京都と市役所が補助金を出したというのが正しい答えになると思います。

それで、民営化、今までお話をしてきたというところについての経緯なんですけれども、市役所のほうで一番最初に運協の皆さんにお話をしたときは、たしか民間委託のお話だったかなと思っています。それがほかの自治体では民間委託した後に、状況を見て民間さんのほうに全部お任せをする。要は、民間移譲のほうに途中から切り換えていく例も出てきたので、途中から民間委託して民営化します。それが民営化しますというふうに、少しずつちょっとこちらが変わっていているというのが流れとしてはあったと思います。

そういった中で、くりのみの父母の方々からは、もしそうなった場合はどうなるのかという詳しい話を聞きたいというようなお話を受けてお邪魔した経過もあったかなと思っはいるのですけれども。運協の経緯としてはそうだったかなと思っています。

その一方で、こちらのほうでもお話しはしていたんですけども、なかなか運協さんのほうでいただいているご質問とか、お求めの資料とか、そういうご説明のところ、市のほうが、対応がうまくできない部分もあり、お時間を大分いただいてしまったところがあったもんですから、一旦、市役所のほうで方式についてどうするかを改めて考えますというふうなお話をさせていただいて、それから2年ぐらいちょっとお時間をいただいていたんです。

その間、市のほうでいろいろ検討していたんですけども、きちんと説明できるところまでまとまるのにちょっと時間がかかってしまったので、こちらも選択肢が増えたりとかいろいろあったんですが、お話をしても、きちんとしたお答えができるところまで、こちらのほうで調査とか検討ができていなかった。それで、今回、最終的にその検討した結果まで行ったところでお示しをしたのが今までと違うものだったものですから、当然、皆様にとってみれば唐突だというお話になるのかなというふうに思っているんですけど、私たちのほうとしては、同じ方法であったとしても、別の方法であったとしても、一旦、検討するという形にさせていただいたので、ちょっと説明できるところまで

まとめる時間をいただいて、ある程度まとめてからお出しさせていただくことにしたので、そこは皆様のほうには申し訳なかったなと思っているのですが、経過としてはそういうことになるかなというふうに思います。

それから、老朽化について他市はどうしているかというところなんですけれども、他市は様々なところがあります。老朽化していて今回の小金井市のように閉めるというお話をしている自治体も小金井市だけではないです。また、タイミングもあるんですけれども、老朽化するよりも前に民間さんに移譲してしまって、その後、民間さんとしてどうしているかというのはちょっとこちらでも調べてはいないんですが、そういう状況もあったかなと思います。

あと、現在、公立保育園は全部耐震改修済みなんですけれども、耐震改修が難しくなってしまった自治体というのが過去にありまして、そういうところについては、どうしようもなく閉めるしかないという例もありましたし、中には、例えば都営アパートの1階で保育園をやっているような例もありましたので、そういうところだとやっぱり都営アパート自体どうするかという話とセットになってしまったりとか、老朽化についても様々な例があったかなというふうには思います。

私からは以上です。

○西岡市長

率直な思いやお声をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。

私にとりましても、市長として大変苦しい決断でございます。今あるもの、今まであったもの、こちらを段階的縮小とは言いながらも廃園にせざるを得ないという状況。しかし、そういうことを決断することは本当はつらいことではありますけれども、しかし、そういう決断をせざるを得ない状況にあるということでございます。

それはこの見直し方針案の中で、これまでの経過、また、小金井市を取り巻く課題、そして公立保育園における課題ということで明記をさせていただきました。様々な複合的な課題がありますが、一に子どもの安心・安全をしっかりと守っていきたいということ、そして、保育の質の向上を目指していくという使命がある中で、私たちがこの12ページにも書いてあるような、新しい拡充策や新たな取組というものを実現、これをどうしてもさせていただきたい。多様な保育サービスの拡充、そして、そのためにはどうしても人材が必要になってまいりますので、そういった人材をしっかりと確保させていただきたい。

また、ご承知のように待機児童への取組に最重要課題として市長として取り組んでま

いました。平成27年に私、市長に就任しているんですが、そのときは平成26年、前年が多摩地域で待機児童率がワーストワン、たしか261人だったと思います。そして、市民1人当たりの児童福祉費にける経費、これは未就学児のために必要になる予算ですが、これも多摩26市で一番低いワーストワンでした。その状況の中から市長に就任をさせていただいて、私としては、子育て・子育て・教育環境の向上こそが、このまち小金井市の持続可能なまちにつながっていくというふうに確信をしまして、いろいろな取組を行ってまいりましたが、やはりどうしても財源の確保というのが大きな課題となっています。

そんな中でも一生懸命、努力をいたしまして、令和2年度、昨年度は、ちょうど児童福祉費につきましては多摩地域で市民1人当たりの予算額が初めて1位になりました。しかし、まだまだこれで胸を張れる状況ではありません。子育ての環境というのは、単に予算額だけで決めるべきものではなくて、まちの総合力が問われていると思いますので、市民の力や地域の力をもっともっと生かせるまちでありたいと思っておりますし、人と人とのつながりを実感しながら、子育ても仕事も楽しめる、頑張れるまちでありたいと思っています。

そんな状況の中で、結果としては待機児童数は、残念ながらこちら胸を張れる状況ではありませんが、41名まで下がりました。来年は4園、新しい民間保育園を開設をいたします。267名の定員増を図ってまいります。相当保育園の数が増えました。約6年間で2.1倍でございます。さらに300人弱増えていくということです。

しかし、市長としては、民間保育園の方々に大変努力をしていただいて、開設をさせていただいてまいりました。とてもたくさん園です。そして、そこで毎日働いている公立と同じように保育士の方がいらっしゃいます。その保育士の方々にも小金井で定着して働いていただきたいというふうに考えていますが、考えなければいけないのは、保育園の定員数の適正化を図っておく責任は、小金井市にあります。この保育園の開設状況、定員数が過剰な飽和状態になってしまいますと、当然、民間保育園の方々の経営を圧迫することにもなりますし、いろいろなリスクを増やしてしまうことにもなります。

そういう意味からも、今後の人口動向や保育定員数の総数というものも考えた結果、私どもとしては、この新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）ということを策定させていただいたということでございます。

まず冒頭は以上でございます。

○参加者

ありがとうございました。

4園もいます？民間の保育園で……。何か今のちょっと言い方だと、民間4園の株式会社の方のしっかりとした会社の、企業の経営のため、今、そのような感じで伺えたんですけど。そのおかげで公立園を閉めている、閉められているというちょっと印象があって、何かちょっと切なかったんですけど。すみません、分かりました。

あとちょっと1点だけ。先ほど市長が先に話していただいたときに、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）【修正版】」ということで、この説明会の直前にまた変更があったりという事実が、まさに示しているのではないかなと思うんですけども。例えば先ほど担当課長からもお話があったように、いろいろと、例えば民営化についても、民営化でなくて移譲というこの変化であったり、その後2年あったり。それが、そういう長い経緯があって、初めて保育課のほうから廃園ですと、こういう方針に固まりました、皆さんに説明できる言い方がこれですというので、私たちは初めて廃園という言葉突きつけられて、はじめましてなんですよね、感覚としては。

一つお願いしたいのは、強く、この見直し方針案をもう出しました、これが保育課の方針ですと言った後に意見がいろいろあって、また変えたじゃないですか、先ほどおっしゃったように直前で変えるようなことがあるというような案なわけですよ。案ですから、いろいろと改善していただかないと困るんですけれども。そこからも伺えるように、早急に進めるには、あまりにも問題がとても重要で大きいなというふうに思っているんですよね。

民営化のときもお話が出たときに、正直、反対、賛成という案よりも、分からないという言葉、くりのみ保育園の保護者の方ですけども、いやいや分からないよという言葉が結構多くて。まずはそこをやはり、これもぼっちゃりですと、保育課、小金井市として、これもう、よくしていくためにしようがないんだと、これはもう小金井市がよくなるために廃園しますって、子どもたちに堂々と言えるぐらいの、これはちょっと極端な例ですけど、分かりやすく申し上げると、それぐらいのものを出していただきたい。それを出すのは多分、そんなに簡単ではないと思うので、1年、先ほど0歳児募集するというのを延伸していただいたというお話なんですけれども、そもそもこの廃園の説明会の中で、なぜ0歳児の募集停止、募集について、それが一緒になって話されているのが、もうちょっと正直分からない。それは別問題だと伺っていたので、それがその説明会で言われるということも何となくちょっと混乱しているんですね、正直。

なので、その1年延伸しましたということも踏まえて、この計画が大丈夫ですと、今後10年、20年、小金井市、子育て環境日本一だというふうな感じでもう誇れるように。私が税金を払って、ああ、よかった、じゃあお願いしますというふうになれるように、丁寧に進めていただくことというのを望みます。

民営化が全体反対とか、廃園も絶対反対と、今のままでは分からないんです。分からないので、とにかく、この雑な感じで進めてもらうことが不安で、それはやめてほしいんです。ということをお願いします。

○西岡市長 熱い思い、また率直な私どもへのご評価をいただきましてありがとうございました。真摯に受け止めさせていただきたいと思います。

いろいろなお声をいただいております。そして、いただいたお声が、市民のまさに大切な声、保護者の声だと受け止めておりますので、これからもどんな状況であっても私たちは、公立保育園の運営主体であることに変わりありませんので、その自覚と責任をもって、精いっぱい取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

それでは次に前の方よろしいですか。

○参加者3 くりのみ保育園に子どもを通わせております●●●と申します。

質問が二つと、要望が一つあります。一つ目が、現時点では、これは見直し方針（案）となっていると思いますけれども、この案が決定するには今後手続きが必要となると思うんですけれども、議会で決定してとかあると思うんですけれども。小金井市、現時点では、どう、何年、何月時点での確定を、目標というか、目処として、現在描かれているのかということをお願いしたいです。

もう一つの質問は、先ほど、正規職員がマイナス27名になるというお話があったときに任期満了に伴うというお話があったかと思うんですけど、任期満了ということは、会計年度任用職員なのかなと思って。ということは、正規職員ではないんじゃないのかなと、単純な疑問があったので、118から91というのは、会計年度任用職員や臨時職員のほとんどが任期となるのかなのかということを教えていただきたいです。

最後に要望は、小金井保育園、けやき保育園については、今後も小金井市としては公立保育園としての運営を継続していくというお考えを以前から伺ってはいるんですけれども、こちらも施設は老朽していくかとは思いますが、その建物の安全な維持のために、

どうしてもお金はかかってくるかと思うんです、かかってくるかと思うので、それをどのように確保していくのかというのを、この見直し方針が確定する時期には明文化していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○三浦保育課長 答弁のほうよろしいですか。

○平岡保育政策担当課長 まず、案が確定するということなんですけども、条例を出すよりも前、条例を議会に出すよりも前の段階で案を取らせていただくか、条例を出させていただくタイミングで案を取るかというのは、ちょっと悩ましいところかなと思っています。

条例を議会に出す前に皆様に、パブリックコメントという言い方になるんですけども、それをさせていただく時期があると思っております。その前に案を取るのか、案のままするかというのは、ちょっとまだ決めかねているところがあります。

条例を議会に出す時期については、過去に議会のほうにお示しした資料の中には、来年の年明けの議会というような資料も出させていただいたことはありますが、今の時点で公式にいつということはお伝えはしていません。ただ、過去のスケジュールを考えた中では、そこが一つのポイントになっていたというのは事実ですので、具体的に案をいつ取るのかということについては、今日初めて皆さんとお話をさせていただいている状況もありますので、今この時点で何月というところまで明確なスケジュール感を持っていないところであります。

それから、任期満了のお話なんですけれども、正規の職員の方々の中に任期付きの職員という形で、正規の職員の方なんですけど、いつまでというふうに決まった形で採用させていただいている方がいらっしゃいます。その方々がこの27人の大半を占めているという状況になっています。

あとは、会計年度任用職員の方々でご協力をいただいている方もいらっしゃるんですけども、その方々はこの中にはカウントをしている状況ではありませんので。あとは定年ですとか、そういうような辺りも含めた計算が中心になっているというところになります。

多分、ご心配されているのは、これによって他の仕事に移ったりとか、園を辞めなければいけないとかということがないかということかと思うんですが、それについては全くそういうプランにはなっておりませんので、そこのところはご安心をいただければと思います。

私からは以上です。

○西岡市長           ご質問、ご意見、ご要望いただきましてありがとうございます。

1点目、2点目を課長からのご答弁をさせていただきました。

今後のスケジュール感について答弁させていただきましたが、この段階的縮小から廃園というこの一連の流れにつきましては、条例改正というものを議会で議決をしないと、議決をいただかないとこの方針案どおりに対応できるものではありません。

一つは、0歳児の募集というタイミングが令和4年4月に向けては、くりのみとさくら保育園は募集をします。そして、この方針案のスケジュールにも書いておりますが、令和5年4月1日からの段階的縮小ということになって、逆算をしていきますと入園募集の関係や保育園の申請の手続等がありまして、今ちょうど新たな募集の準備に令和4年4月1日また準備してありますが、来年も同じ頃に明確な方針が定まっていなければいけませんので、そういったことを逆算していきますと、一つの事務的なスケジュールとして、第1回定例会ということ、これは来年の3月になりますが、その議会のタイミングというのはあるということはお示しはさせていただきましたが。秋口から始まるこの入園募集を行うに際しては、方針を定めていなければいけませんので、そういったことのタイミングをしっかりと見極めながら。そして一方、現時点では説明会に尽くしております。これから、今回8回の説明会に臨ませていただくとともに、いろいろなご要望、ご意見もありますから、我々としては、お声をお寄せいただいたご意見、ご要望の中で、もちろんご批判もありますが、反映できることはしっかり反映させていただきたいと思っておりますし、検討すべきものはしっかり検討させていただきたいと思っております。

また、この修正案の中に小金井、そしてけやき保育園の今後も継続していくという上で必要となる手だてや施設の対策方針などについても、しっかり明文化してほしいというご要望につきましては、お聞かせをいただきました。これから検討させていただきたいと思っております。

○三浦保育課長   よろしいですか。

○参加者           ありがとうございます。

○三浦保育課長   では、2列目の方お願いします。

○参加者           くりのみ保育園●●●と申します。

何点かあります。これは質疑のすごい膨大な量でしたけど、前に一つ同じ質問が重複してましたので、仕事の間に帰り道、頑張って読みましたけど読み切れませんでした。重複した質問と答えが本当によく出て繰り返されていて、もうちょっとまとめていただ

けたらと思いますけど、それは置いておいて。

私立の園児の1人当たりの面積はとか、何かそういった質問で、それは把握しておりませんというふうに書いてあって、私はびっくりしてしまっただけですけども。1人当たりの面積も把握しないで、私立園でも保育の質は変わりませんと、それで質を本当に担保できると言えるのだろうか、とっても不安に思いました。それが1点目。

それから、経験年数が保育の質に直結するという認識はないというふうにも記載してありましたけれども、では、保育の質をどのように評価していくのか。保育の質の評価というのはとても難しいということは私も思いますしそのように書いてありますし。すごい難しいというのは分かります。でも、難しいのと、難しいからやらないのとでは全然違うので、市としてはどういった指標を使っていますか、あるのであれば。それはあるはずだと思うんですけども。評価できないからやらないというのあり得ないと思うので、どういった指標で評価されて、質を確保しますと明言されているのか、教えてください。

3点目、保護者が専門家の意見などを交えて検討してくださいといていた質疑の答えに、全くそれとは関係ない答えが書いてありましたけれども、誰の、どんな意見や方法を根拠に、どんな方法を根拠にとかですね、客観的な根拠があるのが普通だと思いますので、そういった根拠を明確に示していただきたいと思っております。

やはり公務員の保育課の方々は保育の専門家ではないと思いますし、市長も保育の専門家ではないのだらうと思っておりますので、当然、保育の専門家の意見も聞いていらっしゃるでしょうし、プロの意見を参考にした上でじゃないと、保育の質の確保するのは無理だと思うので、たくさん勉強もされているし、意見も聞かれていると思うので。私も、皆様がどういったことを検討された上で、こういった結論に至ったというのを、あまりにもゴールが違う中で、ちょっとなかなか理解が深まってないなという感じがあるので、同じ情報を得られれば少し理解が深まるのかなと思うので、参考にされている書籍などあれば教えていただきたいなと思います。

それから、先ほど保育の定員の安定的な確保の観点や民間保育所の撤退等のリスクを回避するため、保育定員の適正化が新たな課題となってきているというふうに書いてありますが。それで、公立のほうも枠組みがされたりというのはあると思うんですけども。そもそも民間を入れるということの、私は保育はこれに該当しないと思いますけれども、民間を入れることのいわゆる言われていることとしては、民間を入れることでどんどん

競争の原理が働いて質が高まるという意味が一般に言われると思うんですけども。もし、そうだとしたら、それを信じて株式会社を入れているんだと私は思っているんですけど。そうでなければ、あまり人件費等の低い株式会社の保育園が保育の質をどんどん上げるのは、ちょっと今までのことからあまり考えにくくなると思うんですが、それでも、保育の質をどんどん上げていくというふうに考えると、競争の原理が働いて質が上がるはずなのに、定員が割れてきたら適正化、公立の枠を減らします、公立を閉じます。そうすると、人気があるんですよ、公立は。倍率が高いです。倍率の高いところを閉めて、空いているところにわざと空き枠をつくって、そこに子どもに行ってもらおうというのが、果たしてそれが質の向上につながるのかというのが、甚だ疑問です。

そもそも民間に任せると競争の原理が働いて質が上がるという原理そのものに反したやり方だと思います。

それでは、園庭がなくて当たり前、ベテラン保育士がいなくて当たり前、できなくて当たり前、若い保育士さんばかりで当たり前という保育環境になっていっても不思議はないと思います。近くに広い園庭があって、ベテラン保育士がいて、看護師さんがいて、自園で調理をしたおいしい給食が食べられて、アレルギー対応をしっかりとしくて、特別な配慮を要する子どもの保育もしっかりしてくれる、そんな保育園が地域に一つ、徒歩圏内で通える範囲に一つずつあるだけで、それが保育の質を底上げするんだと私は思います。それを潰して、わざと枠が空いたから、空いているところに行ってくださいというのは、それで保育の質が上がるとは、私はとても思えないんです。ちょっと意見になりましたけれども。この適正化を図るという手法が果たして保育の質を上げることに直結するのか、もう一度検討していただきたいです。

4点目。すこやかな策定のみではなく取組を進めていかなければ意味がないと思いますと書いてありました。コロナ禍で難しいので検証はできていませんと書いてありましたけど、取組の実績はあるのでしょうか、ぜひ教えてください。研修を1回やったから保育の質が上がるとはとても思えません。継続的に、しかも業務の一環としてです。忙しい保育士さんに業務外で研修会に行ってくださいと言ったって行けません。業務の一環として定期的に、そして継続的にしっかりした、そして本当に効果のある研修をできて、初めて、これで保育の質を守れますと言うなら、それはしようがないかなと、それはそれで本当にみんな保育の質を上げるんだったら、それはとても素晴らしいことだと思いますけど、実績がないのに、これから研修会するつもりですというだけで、それで

廃園、じゃあ大丈夫だとは思えないです。取組の実績があったら教えてください。

5点目。これはちょっと各論ですけど。園全体で児童数が減少して異年齢と触れ合う機会が、異年齢保育が成り立たなくということに関しては、他園との交流を考えていますとおっしゃっていますけども、例えば、くりのみだったら、どの園とそういうお話がついているのでしょうか。どの園が協力してくれるのでしょうか。

私は、自分の子どもはあと●年で卒業しますが、一番上の年長さんが、やっぱり下の2学年の羨望のまなざしを受けながら、お兄ちゃん格好いいと言われてながら自信をつけていく、そのかわいらしい姿が、最後の年は、つばめさんも、ひまわりさんもいない、おひさまさんだけのクラスになる、そのさみしさが、もう想像するだけで泣けてきます。ちょっとほかの園の子と交流しただけで、ほかの園とのことだけではないと思いますが、それをどうやって保障するつもりなのか、具体的な案を聞かせていただきたいと思います。

6点目。すこやかで市の役割というのを定めたということで、保育の質を上げていく、実際に公立保育園に役割を持たせるのではなく、市がそれをやるんだというようなこととおっしゃっていると思います。市自体がやっていくんだと。市って誰のことなのか、市って何ですかということで、実現する実態が公立園が例えばあれば、そこでその人がやるんだというの分かるんですけど、市がやるとは何のことだろうと思うのです。園児1人当たりの平米数も分からない、どんな保育士がいるかも分からない、どんなレベルで保育園をやっているのかも分からない。だけど市がやりなさいと言ったらやるのかと言ったら、そんなことは、そんな簡単なことじゃないんだと思うんです。私は親になるまで保育を非常になめておまして、自分が子どもを産んで初めて最初だから、もう預かってくれるだけありがたいですぐらいに思っていて、最初は職場に併設されている民間のところを預けてたんですけども、そこは若い保育士さん……。ごめんなさい、質問はここまでで、ここから私の要望というか気持ちになるんですけども。民間のところ、若い保育士さんが一番上で、その方は人としては悪い人じゃないんですけど、多分、ちゃんと保育を学んでスキルアップをする機会を持ってこなかった方なんだろうなど、今思えば思いますけど、子どもに突っ込んでいるみたいに、そんなことしなくていいからと否定的なことばかり投げかける方だったんですね。でも人としてはいい方でしたけど、そこで2年間お世話になって、公立に入ってきましたけど。いろんな勉強会とか保問協とかいろいろあって、保育ってこんなに面白かったのかというのを初めて知り

ました。預けて助けてくれればいいのはとんでもなくて、すごく奥深いものなので、簡単に保育の質を保つって、そんな簡単なことじゃないかと深く私は思っております。

ごめんなさい、あともう1個ありました。7点目。廃園についてですか、あと民間移譲もそうでしたけど、他市の例を参考にしましてとよく聞くんですけども、ちゃんと公立園の役割をしっかりと明文化して、じゃあこれをやるためには何園必要かなというのを考えて、地理的な配置を考えて、その上でじゃあ小金井市だったら4園あれば大丈夫だねとか、そういうのをちゃんと明確に示した上で、ここはしかも老朽化してるし、泣く泣く廃園ですと言われたら、それは本当に泣く泣くなんだと思うんですが、公立園の役割もはっきり定義しないで、結局すこやか保育ビジョンのときは市がやりますという、実現、私は不可能だと思いますけれども、市がやりますという、ちょっとよく分からないことになっていますし。この辺の公立保育園にやっぱり何で定義しないのかなと。昔の運協の方とかの話を聞いていると、それを求めてきたと言うんですね。公立園の役割をしっかりと明確にしましょうよと求めてきたという話を私は聞いているんですけど、それをずっとやって来なくて、ずっと民営化もできなくて、うわ、もう老朽化でタイムリミットだから廃園というふうに、私には見えます。これまでの経過を見ると。なので、本当に5園必要かどうかというのをちゃんと検討した上で、これから保育もどんどんよくしていきたいとなったときに、それを実施する、実現する場所絶対必要だと思うので。

例えば仕事をしていなくても育児に本当に疲れてしまったりとか、すごく迷うと思うので。近くにおじいちゃん、おばあちゃんもいなくて、近くでちょっと預けて一緒に育てていくみたいな形で保育園が存在してくれたらどんなに心強いのか、それは仕事をしていないお母さんでも、そういうのを使えるような環境に、もし小金井がなっていったら、それはとってもすてきだと思うのです。そんなときに、何かをやりたいと思ったときに、自信と責任をもって実施できるのは、やっぱり場所と人が必要だと思うのです。それを2園に集約していいのかなと、これはすごく疑問です。

なので、公立園の役割、これから何をやっていきたいか、人が少ない、お金が少ないのはよく分かると言ったらあれですが、もう本当にすごい大変な問題だと思いますけども、じゃあ、お金どうやって増やそうとか、もっと何か小金井方式と言われるような何か面白い何かを打ち出してくれないのかなと思います。静岡県とかは待機児童園とかいうのを公立でつくってみたりとか、世田谷区は都立中学校の中に保育園をつくったと

か、何かこれ市長の手腕だなというような面白い、私たちが思いつかないような案で難所を乗り越えて、本当に子育て日本一と言えるような自治体、自信を持って言えるような自治体になってほしいなと思っています。私はその妙案を持ち合わせてないですけども。クラウドファンディングとかの話も先ほど出ていましたけど、やってみればいいじゃないですかって思うんですよね。何でもやってみて、それでも駄目だったら、しょうがないと思ってじゃないけど、何かそこまで何とかして保育の質をよくしようという、何とか実現したいというのが伝わってきません。ので、小金井を子育て日本一にしてください。この手腕で。よろしくお願いします。

○三浦保育課長 それじゃ、ご答弁申し上げてよろしいですか。

○西岡市長 公立保育園、これまで通われている保育園、通っていただいたこと、また、公立保育園やそこで頑張っている保育士さんにご評価をいただきましてありがとうございます。そして、小金井市への熱い思いもお聞かせをいただきまして本当にありがとうございます。

私としては、やや総括的な話になりますけれども、小金井市で私も育ちました。たくさんの人たちから応援をしていただいて、今の人生がありますし、このまち小金井だからこそ私も地域の方々に、たくさんの方々に出会わせていただいて、私自身も成長させていただきました。そういう感謝の思いを持って、このまち小金井市が引き続き持続可能なまち、そして、子どもたちにこのまちをしっかりと引き継いでいけるように、今なすべき環境をしっかりと整えていきたいと、そういう思いで取り組んでまいりました。

しかし、私が市長に就任したときは、子育て環境、特に行政のレベルから見ますと正直申し上げて、先ほど申しましたようにワーストワンのような状況が幾つもあって、本当に厳しい状況からスタートしています。しかし、そんな中でも市民の力や地域の力もお借りしながら、子どもたちにとってこのまちがよりよいまちであるように、子どもたちの成長にとってよりよいまちであるように、子どもたちの最善の利益を大切にしていけるまちであるようにということで、実に様々な施策に取り組んできたところです。

これからも小金井市の子育ち・子育て・教育環境の向上には、どうしてもやらなければいけないことがたくさんあります。そういったことを一つ一つ、これからも継続して、また、さらに拡充して取り組んでいくために、引き続き努力をしてまいりたいと思っています。

お話の中で、特に保育の質の維持・向上、これが非常に難しいこと。小金井市だけで

できるのかどうなのか、疑問であるということ。それから、具体的に評価制度をどのように考えているのか、研修だけでは足りないのではないかなどなど様々なご意見をいただいたところでございます。実に多くの時間を費やしていただいて、小金井市では初めて、小金井市すこやか保育ビジョン、保育の質のガイドラインと今後の保育の施策の方向性、これを今年の3月に初めて取りまとめさせていただきました。これまでもこういったものはありませんでした。民間や公立保育園に横串を入れて、共通の旗印をつくろうと、それが必要だと、こういったことで私どもも取り組ませていただきました。

一方、民間保育園の皆様方には、それぞれの保育園保育理念、ご承知のようにそれぞれの保育園が目指している目標や理念、そして運営方法、運営スタイルというものがあまして、それはそれで市としても一定の東京都の児童福祉審議会の審議、専門家の方々の評価を得て、審査も経て開設していただいた保育園ですから、各保育園の皆様方にももちろん、今も頑張っていておりましたが、引き続き努力していただきたいし、市も一緒になって頑張っていきたいと思っています。

その保育の質の維持・向上に向けて時間の関係で若干割愛をしますが、どうしたらいいかという施策につきましては、一つはこの保育の質のガイドラインの活用ということをしっかり行っていきたいと考えております。

二つ目には、保育者の皆様方の研修制度をお手伝いしてまいりたいし、いろいろな取組を行ってまいりたいと思っています。

3点目が、各種評価の実施というところを明記させていただいております、「福祉サービス第三者評価の受審費用の助成を継続し、外部評価の受審を促してます。これにより、統一的な基準による客観的な評価を受け、その評価結果を保護者にも積極的に公表することで、各保育施設での保育の質の維持・向上を促進します。また、国の「保育所における自己評価ガイドライン」の積極的な活用を推進します。」と明記をさせていただきました。

4点目としては、民間保育園においても保育士の確保というものが、これはもう大前提でございますので、そのお手伝いをしっかりとさせていただきたいと思っています。

そして、5点目として、保育分野におけるネットワークづくり、横のつながり。これが小金井市は弱いという指摘もいただいております、私もそういう認識がありますので、(仮称)巡回保育支援チームというものを設置をさせていただいて、この中のまたさらに「幼児教育・保育アドバイザー」の設置などさらなる体制整備を検討し、推進して

まいりたいと考えております。

特に、今存在していないこの巡回保育支援チームというものにつきましては、この段階的縮小というこの見直し方針案を実施していくことで、公立保育園の中で、ご指摘いただいたように、一生懸命に頑張っていたいただいた保育士さんの知見や経験というものをご大いに生かしていただき、小金井市全体、民間園も含めた全体の保育行政の保育の質の向上にぜひ力を尽くしていただきたい、そういう環境をつくっていきたくと、市長としては考えています。

そして、保育の質の維持・向上に向けて大切なことは、幼保小の連携、これは私は非常に重要だと思っております、ここも小金井市の取組の中ではやや、これ弱い部分です。多くご指摘をいただいている部分です。子どもの学びや発達が円滑に接続していくように、幼稚園、認定こども園、保育施設と小学校の連携が必要です。小金井市では、「子どもの健やかな成長のために、他の地域の保育施設、幼稚園、認定こども園に通う児童についても配慮しつつ、教育保育と連携して幼保小連携を推進していきます。」と明記をさせていただきました。

くりのみ及びさくら保育園につきましても、この分野、幼保小の連携については、特に取り組ませていただきたいと考えておまして、私も教育委員会の皆様方、大熊教育長と日々連携をしておりますが、ぜひ、教育委員会としても、ここは努力したい、頑張りたいというふうにおっしゃっていただいているので、教育委員会との強固な連携をつくっていただけるように、結果そのことが保育の質の維持向上や切れ目のない子育て支援につながっていただけるように努力をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○平岡保育政策担当課長 幾つか具体的なところを補足させていただきます。

まず、児童1人当たりの面積のところなんですけれども、ご質問がシンプルだったので、こちらも現実的にちょっと答えあぐねたというのが正直なところです。市のほうで、確かに保育面積と言われる保育室に対してのお子さん、1人当たりの面積というのは当然把握はしているんですけども、いろいろなご質問があった中で、面積というお言葉だったものですので、例えば建物全体の面積であるとか、敷地の面積というような視点も、例えば園庭などのご質問もあったので正直迷いまして、そこまで含めると、全ての園を把握し切れている状況では、敷地などについては特にそういう状況だったものですから、ちょっと答えが曖昧になってしまうと思ってあのような書き方をさせていた

だいたというのは実情です。

公立保育園の場合は、当然公共施設ですので、全部把握はしているんですけども、施設によっては、建物の全体の延べ床面積であるとか、そういう部分については把握ができていないところも、申し訳ないんですが一部あるものですので、答えとしてお叱りを受けるところはあったかもしれませんが、事実としてはそういう理由でああいう書き方をさせていただいたというところをご説明をさせていただきます。

それから、保育の質についてです。私たちも今回のこの、市長も引用しましたけれども、すこやか保育ビジョンをつくる中で、保育の質について定義するかどうかというのは、学識の方もいらっしゃる中で投げかけをさせていただいたと記憶しています。結果として、やはりいくつかの学説という言い方は変なんですけれども、いろんな考え方があるというふうには思っています。

一例としてよく言われている例を挙げさせていただいているんですけども。人とモノと環境、この三つの三要素というのはよく聞くお話だなというふうに思っています。ただ、学識の方にも伺ったんですけども、やはり定義をし切るには質というものの自体の定義というのは、やはり難しいというところと。定義してしまうことによるリスクとありますか、限定的になってしまうというところも悩ましいというふうに思っています。

一方で、国のほうでも保育の質に関しての検討会というのがたしか、一時期やっていたかなと思うんですが、あちらの中でも最終的に、たしか定義自体は導き出せなかったかなと思っています。それについても着目をしていました。そのままいただくというところまでは考えていなかったんですが、やはり、国でも専門家を集めてやった結果、定義づけできなかったものについて定義するというのは、今回、小金井市というか策定委員会の中でも、そこまでは踏み込まなかったというのが現実的なところですよ。

ただ、質を上げていくためにどうしていくかという考え方は出るよねというような視点で、その一つが、公立の保育内容をベースに考えた保育の質のガイドライン。こちらでも実は、保育について勉強されていらっしゃる方から見ると基本的なことしか書いていないという部分もあるかなと思うんですが、この中から現場での実際の保育の実践の仕方であるとか、今までやってきたことなどを意見交換しながら、書いていなくてもこの項目に合致するようなことをみんなで新しく考えてもらったりとか、そういうふうな使い方などもやってもらいたいというふうな意図でつくらせていただいたので。ご意見の中にもあったと思うんですけども、つくって終わりということではなくて、つくった

ところがスタートというふうに思っています。

ですので、市のほうとしても、そもそもやはり質というものについて定義づけするというのはとても難しいというふうに思ってますし、質という言葉の捉え方も様々だと思っています。やっぱり保育園選びをされる中でも、どういう視点をポイントにされるかというのは、保護者の方まちまちだと思うので、そういう視点から、恐縮なんですけど、今回のこの整理としては、一義的に定義をしないというふうにさせていただいています。

それから、順番がちょっと逆になったらあれなんですけども、保育士さん、経験年数が大事ではないというようなちょっと受け取り方をされるようなお答えをしてしまったところがあったと思うんですが、こちらのほうでお伝えしたかったのは、経験年数だけで全てを決めるものではないということをお伝えしたかったというところがあります。当然、経験がある方のほうが一般的に経験がない方よりはいいというのは思っているんですけども、経験年数が長いだけで、その方のスキルを全てちょっとこちらとして判断するということまではいかないのではないかという思いもあって書かせていただきました。言葉が足りなかったりというところがあったところは申し訳ないと思っております。

それから、こちらの取組の状況でございますけれども、正直申し上げます。こちらのほうで今きちんとお話しできるようなところに至っておりません。元々考えていたものについては、まず各園に一旦できたというのを配らせていただいて、秋に集合研修、そこで各園からお一人ずつぐらい保育士さんに来ていただいて、可能であればグループワーク、難しければ内容のご説明をして、あとは各園に戻って取組をしていただくようなアプローチをして、それを何年かまずは続けていきたいという思いが担当としてはありました。ただ、コロナがちょっと、私として甘く見ていたのは恐縮なんですけど、集まってできるようなものの状況ありませんし、保育士さんたちの研修も動画配信の研修に大分変わってきている状況があるものですから、まずはこういうものについて知っていただくところに着眼点を置いて、今年はやっていきたいというふうに思っています。

それから、保育士さん、やっぱり業務でないとなかなか参加しづらかったり、時間がないというお話は、実はこれをつくったときに民間園さんからもいただいたことがあります。ただ、残念ながら、そこについてはお金が伴うことなので、今ここで代わりに日当を準備しますとか、なかなかそういうところまではっきりは申し上げられないんですが、ただ研修をやりますと言って保育士さんが簡単に集まってくれるとは思っておりま

せんので、そこを今後はどういうやり方ができるかというのは、ちゃんと考えないといけないというふうには思っています。

また、今後の取組の状況については、こちらのほうも遅れているのは本当に申し訳ないんですけども、きちんと進めていくような準備は今しているところでありますので、そういった形で進めていきたいというふうに思っております。

それから、異年齢保育の件です。毎回ご指摘をいただいています。私たちも交流をすることで異年齢保育の代わりができるとは思ってはいないんですが、大変申し訳ないんですが、異世代というか異年齢での交流という方法が今、私たちが考えられる手だての一つという状況です。これについては、ほかにもないかというのは今後も考えていきたいというふうに思っていますし、そこは悩ましいところなんですけど、今はまだ案の段階で、保護者の皆様に説明を始めている状況なので、ちょっと園や学校へのアプローチというところまではまだ踏み込んでいません。ただ、先日、市長からもありましたとおり、教育長とも話をする機会がありましたので、近くの小学校との連携・交流というのは、教育長のほうとしても、特にこの園については、そういうことが進むのであれば進めていきたいというふうな話を内部ではしておりましたので、近隣の小学校さんというのは一つあるとは思っています。

あとは、それぞれの園の配置状況によって、認可の保育園さんがいいのか、状況によっては認証さんや小規模さんみたいな保育園さんもあるので、どこがいいかというところは、少しずつお話はさせていただいて、できる限りやっていきたいと思っておりますが、あまり頻度が多いとかえってお子さんのご負担にもなるので、そこは現場とも相談をしながら、やっていきたいというふうに思っています。

それから、定員の関係でございます。おっしゃるとおり民間を入れていくのであれば、民間の競争の中でというところは出てくるかなと思うんですけども、公立保育園は、競争原理が働かないところにいる保育園になっていますので、その保育園がいる中で競争原理というお話は、なかなか市としては難しいというところがあるというのは一つあります。かといって、公立を犠牲にして民間を守るのかというお話だと正直思うんですけども、そういうような考え方を持っているわけではないんですけども、ただ、定員として市が権限を持って調整できるのは、自分が運営している保育園だけなんです。特に、今回0歳のところまでお話をさせていただいたところは大きかったと思うんですけども、保育園を新しくつくる場合には、ちゃんと5歳まで進級できるように0歳か

ら5歳までの園というのをつくってもらっているんですね。そうすると3、4、5歳というのが進級するまでの間、しばらくとても空いてしまう状況に民間園の新しいところはなってしまう関係もあるので、実は、最初はそのところを公立保育園のほうで募集を調整させていただいてきたというところが元々の発端です。

その後については、0歳のところですがけれども、0歳の人数を絞らせていただいているのは、1歳から入りたい数というのを市の全体の中で増やしていきたいという思いがありまして、公立保育園の0歳児の、申し訳ないんですけれども、数を減らさせていただくと1歳から募集できる数が進級の関係で増えるものですから、そういう視点でご協力をこの間お願いをしたという経緯はあります。ですので、最終的な数の関係になると様々あると思うんですけれども、そういうような視点もあったということはお理解をいただきたいと思えます。

そういった視点もありましたので、今度の4月にオープンする四つのうちの二つの園は、最初から1歳からの保育園ということでスタートする園もありますので、1歳からのニーズの数もある程度確保しなければいけないというところがあったというのはお伝えをさせていただきたいと思えます。

それから、様々な質に関する根拠の件については、先ほど申し上げたとおりです。大変申し訳ないんですけれども、こちらの保育ビジョンの中でご検討いただいていた内容と、あとは国の動向なども見させていただいていたというところもあります。具体的な文献等をお示しできないのは恐縮なんですけど、そういった中で、これを生かしていくことで高めていこうというような考え方で、今、小金井市はいるというところなんです。

最後に市の役割のところなんですけど、市の役割についてなんですけれども、市役所の今の考え方としては、公立保育園の役割、簡単にいうと保育課の役割みたいに別々に分けて役割を決めるということではなくて、それも含めて小金井市の役割ということでもめさせていただいたというふうに思っています。当然、公立保育園でなければできないこと、逆に公立保育園よりも保育課がやったほうがいいことというのはあるとは思いますが、その先の分けるところについてまで定めるところはしないで、両方で連携しながらやっていこうというふうに今は考えていますので、そういう意味で役割を公立保育園という施設自体に押しつけるという言い方は変だと思ってしまうんですけれども、位置づけるのではなくて、全体で保育課も公立保育園も保育課の一部として全体でやっていこうということで、今そういう考え方でいるということだけをお伝えをさせていただきます。

長くなりすみません。

以上です。

○三浦保育課長 回答漏れございますか。

○参加者 保育に質について何を根拠にしているのか、すこやか策定しただけということですか。

○平岡保育政策担当課長 すみません。今言っていたとおりのお答えをしていると思うんですけども、そのために、このすこやか策定したときの協議の状況と、国の保育の質に関する検討の資料、そういった辺りを参考にさせていただいていますが、最終的には、これをつくったときには策定委員会で議論をいただいていますので、策定委員会での議論がベースということになります。

○参加者 私が聞きたかったのは、廃園というのを決めるのは、やっぱり市長であり、保育課の方だと思うので、保育課とか市長の方々が参考にされているのかなというのを知りたかったです。

○西岡市長 保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告という資料もお渡ししていますし、ホームページでも公開しておりますが、この中で小金井市がこの間検討してきた内容、それから歴史的な経過、また民間移譲、通常、公私連係、事業団方式、あるいは廃園の場合、園統合の場合、一部委託の場合ということで6パターンについて検討をさせていただきました。全国的な公立保育園の運営の見直しとしてこのような事例がある、例えば事業団とか、財団方式であったりとか、近隣で言えばですね。そういった多様な方式を把握しながら、それを小金井市の公立保育園として考えたときに、どの方策が小金井市の今の現状にマッチしているか、ふさわしいか、こういった視点で全部で約八つの指標などに基づいて検討をさせていただいたということになります。

○平岡保育政策担当課長 補足です。多分、質の維持・向上と公立保育園の数との絡みでの廃園のお話なのかなというふうに思っています。それについてなんですけれども、公立保育園の、私たちのほうで考えさせていただいたのは、大変申し訳ないんですけれども、公立保育園五つをこのままずっと維持していくというのは難しいという状況はずっとあります。ですので、公立保育園5園を維持できない中でどうやって質をというふうに考えていったときに、建物の老朽化の要素もあるんですけれども、おっしゃっているとおり5園、人もいて場所もあってというのが一番なのは分かりますが、それが難しくなったときに私たちは、数よりも人の数のほうを優先させていただきたかったというところがあります。

す。

ですので、公立保育園の数が減ることによって職員の数、1園当たりの数は若干増えますけれども、それでもなお全体を見てもらうために、この保育巡回支援チームの仕事をしていただく職員も、公立保育園で経験のある職員を充てさせていただくと。そういう形で必要な人材のほうを確保するほうを優先させていただいたというのが考え方です。

それについて、ご指摘いただいている、例えば文献であったり研究成果というようなものについては、特段なく、私たちとしては、すこやか保育ビジョンで質の向上を上げていきたいというときにお金と人と考えたときに、公立保育園を5園維持していくのはもともとこれがなかったときから、なかなか難しいという課題があった中でどうするかと考えたときに、経験がある人を今いる人を集約して、新しい取組をさせてもらいたいというほうを選択させてもらったというのが多分一番近い答えになるかなと思います。

○三浦保育課長 いったんよろしいですか。

○参加者 5園存続できないということをお前提にということは、ここに書いてあります、ということはある可能性を排除するというはノットイコールだと思うので、何とかして何園かを潰すことを前提にした話じゃないですかというふうに思います。

あとは、異年齢保育の交流の場はまだ全体的な方法は決まっていない。それから、研修も実績はまだないので効果などは、全く今のところは分からないということですね。はい、分かりました。

○三浦保育課長 すみません。私の進行がちょっとたどたどしくて申し訳ないんですが、今15時58分でございますので、このまま閉会ということではなくて、あと質問をいただける方は何人ぐらいいらっしゃいますか。6名様ですね。

じゃあ、順番にまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、どうしましょう。男性のほうからまいりましょうか。はい、すみません。

○参加者5 くりのみ保育園に子どもが通園しています●●●と申します。このような機会をありがとうございました。

また、意見書なども一つずつご丁寧にご回答をいただきましてありがとうございました。すごい時間がかかったんじゃないかなと思うんですけど、丁寧に答えていただいて、市はちゃんと向き合っているんだなと思ひまして、うれしく思いました。ありがとうございます。

幾つかちょっと聞きたいことがございまして、市の役割についてなんですけれども、市の役割を示しましたとあるんですが、示したのは、すこやかという中で示しているという捉え方でよろしいでしょうか。

そうしますと、これは質問というよりかは、私の私見と言いますか、質疑等々を聞かせていただきまして、いろいろ質問があるんですけども、ちょっとお伝えをしておきたいなというふうに思います。

公立園の廃園は致し方がないことだと思うんです、個人的には。何ですけど、ただ、ここに集まっている保護者の皆さんは、私もくりのみ保育園に子どもが通っていますが、恐らく市長がおっしゃっている子どもの利益を最優先する、安心・安全に資する。これは、はっきり言って、くりのみ保育園にそろっているんです。ただ、その老朽化というところは問題であるかとは思いますが、ただ、少なくとも私は、くりのみ保育園にそういう信頼を寄せていますし、これからも子どもを通わせたい。これから通う場合にもきっと実現できるじゃないかなと思うんです。

ただですね、じゃあ廃園にしますといったときに、ここに書かれてある見直し案の中の市の役割、四つ、これを行いますと書いてあるので、私たちが信頼を寄せていた施設を廃園にする、何か市長は、数をとおっしゃいましたけど、その数をここには、すみません、伝わらないんです。なので、多くの方が意見書、陳情書というものを持ち寄ってきたというふうに捉えているんですが。

例えば、1番の「率先して保育の質の維持・向上を図る」と書いてある。図るは当たり前で、当然なんです。当然なんですけど、それをどうやって民間保育園と連携をして50年以上も積み重ねてきた質というのを、小金井市全体に広げているのかという具体的なものが全く見えてこないのが、不安に思うんですね。

2番目、「本ビジョンの実現・推進に向けて、必要な予算の確保や体制の整備」云々と書いてあるんですけど、予算が厳しくて老朽化した施設を廃園にしますと言っているこの計画の中で、じゃあ、どのような予算の計上をして、どこに予算をどう使うのか。3園を廃園にする。その代わりに、じゃあどのように実現、推進に向けた取組をしているのかというものも甚だ不明瞭です。

3番目、本ビジョンの、社会情勢等の変化等も踏まえながら、必要に応じて、見直しを行う。何かここもちょっとびんと来なくて、「見直しを行う」。民営化が進めてきましたけど、民営の話が途中で頓挫して廃園というふうに私は捉えている保護者は多いんじ

やないかなと思うんですけど、じゃあその都度その都度見直しをという。はい、分かりました、見直してください。多分、大半の保護者はそれで縦に首を振らないと思うんですね。

さらに、「市全体の保育の充実及び質の維持・向上に資する新たな施策や事業を実現に積極的に取り組むこと。」これも何のことを指しているのかというのを、恐らくすこやかに書かれているのかなと思うんですが、ただ、膨大な資料の中で、今回この見直し案の中に書かれていることは、廃園に向けてのことだけで、廃園することというよりは、廃園をする代わりにどういうことを行いますよという、具体的な取組を私たちは知りたいです。

何度も言いますが、私は、くりのみ保育園に子どもが通っておりますので、くりのみ保育園には、本当によくしてもらって絶大な信頼を寄せています。これから入ってくる子どもたちにも、そういう園で保育に携わってほしいなという思いが非常に強いんですが、そこが廃園になる。ということは、じゃあそれ以上の何かを市は示さなければいけないんじゃないか。というふうに思うので、これは特にお答えいただくわけではないんですけども、この四つのことに関しては、ぜひホームページにも文書にも既に出ているかもしれないんですけど、再度アナウンスをいただきまして、具体的にどういう施策でどのように取り組んでいくのかというのを、ぜひお示ししていただきたいというふうに思っています。これは要望です。特にお答えとか要らない。ここでお伝えさせていただきます。ありがとうございました。

○西岡市長            ありがとうございました。

○三浦保育課長        では、次の方。ごめんなさい。じゃあ最後列の女性の中央の方お願いします。

○参加者            くりのみ保育園に通っています●●●と申します。本日は、説明会を開いていただきありがとうございます。皆さんの言ってることと被るところもあるんですがご意見を述べさせていただくと、多分、皆さんが一番納得がいていないのは、先ほどからも出ていますがおそらく急なということが一つあるかと思えます。それに対して、皆さんからの説明は、ここまできちんとお話ができるように準備していたとおっしゃっていて、確かにきちんとしたものを出す時間がかかるのはある程度仕方がないと思うのですが、これは連動しているのか分からないんですけど、今回の方針案の中で段階的にその0歳児の募集をされるというのが、この間は廃園の話が出て、一番簡単なのは0歳児の募集停止だったので、これは既に日数が短過ぎませんかというのがあって今回それ

を既に延ばしたというのもあるのですが、皆さん、ちょっと私は別の市で国の方針転換等で制度が変わったりとかすごく混乱した経緯があるんですけど、少なくとも1年前ぐらいに分かっていないとその募集に対して皆さん会社の仕事の調整をしたりだとか住むところを考えたりとか、そういったことを検討する時間が非常にないと思うんですね。0歳児の募集をしないということは、この0歳児自体の募集以外にもこの園が今後どうなっていくのか考える上で、ほかの閉園とかもそうですし、今後どうしていくということに非常に関わってくると思うので、何かその時間があまりにも短過ぎるのではないかなということは、非常にあると思っております。

あと一つ、すみません。まだこの資料にもしかしたら書いてあるのかもしれないですけど、なぜそんなに慌てるのかちょっと分からないというか、一応、耐震改修は行われてもちろん維持費がすごくかかると私はこういう建物の維持をしようとするとお金がかかるというのは非常によく分かるんですけど、これに対してさっきの大変なのは分かるんですけど、一応その最低限ある程度の耐震改修もされて運営されているので、それをじゃあ何でもたせることができないからいつまでにそれを閉園しないと、ランニングコストとか、その比較をしていく中でどこまでやらなくちゃいけないというあまりはつきり分からないと私はちょっと思っていて、この中で今年度から0歳児募集を止めるのは急すぎるいうふうに思いましたし、やっぱりその結局今まで園長さんとかがしてきた成果もあると思うんですけど、そういった話をきちんとして、内容を先ほど一つ前の方がおっしゃっていましたが、具体的な対策が全く見えないと思うんです。こういうふうにします。ああいうふうにしますという宣言をしてもらったつもりはないんですけど、それを具体的にどうしますか。例えば、特別支援を必要とする子どもたちを今後けやきさんとか小金井さんとかで受け入れるとしてもこれだけでは距離的にもありますので、民間の方にご協力いただく、民間に協力をさせていただいてやることのできるそれはもちろん民間のいいところもあると思うんですけど、それに対して市はどういう形で、どういうふうに対応をしていますとか、そういったことも見えてこない。医療的ケアとか書いてはいたしましたが、そういう対応が特に分らなかったとか、あと本当にこういう非常に広い園庭があってそれを民間ではそれが必ずしもあるわけではない。それを今の場所、くりのみ保育園例えばもし廃園にしたらこの後どう使うか、それが例えばみんなで使えるようなものにするとか、何かそういう保育に貢献するような場所にするという話もないようですし、そして、民間さんとでも全然いいと思うんですけど、そこでの連携具合

と、市でどういったことをそういうふうにも本心で考えているのかということが具体的に見える。

あと、今後、廃園に向かっていく中で転園を希望する方への点数の案がありましたけど1点が重要なのはすごいあるんですけど、私も3年間認可園に入れなかった経験をしたことがあるので1点ですごく変わるというのはわかるんですけど、確約が取れていない中で1点だけもらえるから、じゃあ、移れるのか？そういうの可能なのか。段階的にあまり先生とか園のことを考えるともう一回できれば3歳児のところでも新しい園に異動したいとか、いらっしゃると思いますのでそういう方には、確実にそっちに移れますというそういう約束ができるようにしているとか段階的に廃園していくという廃園という話が出る前にですね。そんなこと知らないよという人もいますので、そういったことはもちろん卒園まで確保していただくのもありがたいですけど、少なくとも子どもたちにはそういうケアを考えてあげるべきだと思いますし、何かそういう今回そうなのかもしれませんが、具体的なところが見えない中で、はい、廃園決定します。秋から募集しませんとなったそれでこの間の要望書にもあったもちろんとにかく話をとそういう具体的なことがあってこれはおっしゃるとおり5園の継続が難しいから2園に絞ってやるというその大きい意味合いは分からなくもないんですけど、じゃあ、そうすることでじゃあ保育の質を落とさずに、小金井市全体として保育の質を守っていく、それを民間さんにどういうことを公立ではこういうことをして指導もしっかりしていきます。民間さんの配置を見てもそんなに市の中ですごく遠くなる人はいなくて、入れますとかということが、少なくともそれは説明されて、ある程度の納得を得られないと、ちょっと急な話に皆さんが納得できるとは到底思えないのかなと思いました。なので、ちょっとこうなってしまったんですけど、もう市と市民が戦うつもりではなくて、今後皆さんで小金井市の保育の質をもっとみんなでどう質を上げていくのか考えるにあたっては、少なくともそういう説明が1年以上前にはきちんと説明がされていて提供されるものが本当であってでもそれが納得がいかないと進まないかもしれないという状況は残しつつ、今考えている廃園にしていく計画は何年単位で考えていて、今はこういうふうを考えていますということをごきちんとお示ししていただかないと納得していくのはちょっと難しいんじゃないかなと思うので、きちんと市としてはそういったことを方針だけではなく具体的に示してほしいなと思います。なので、今後そういったことをきちんと示してほしいというのが大きな要望かな。

あと、結局さっきの案が幾つか出てたと思いますけど、今回も0歳児の募集が急に来年と今年度は延長になったんですけど、それももし市民の反応に対してだったら非常にありがたいとなるんですけど、だから1年後に絶対やるよと言われても困ると思うので、先ほど議会が0歳児募集に関連して触れることがあるとすれば来年3月かもしれないとおっしゃっていたんですけど、それまでに廃園を確定するには、ちょっと皆さんお互いですけど何がそれに対してこういう計画を考えていてだから進めていかないじゃないけど、今後具体的にはこの時期これこれを出しますという全体像を示した上できちんと説明してほしいなと思います。それがない分では納得してというのは難しいかなと思います。

○三浦保育課長 答弁をお願いします。

○西岡市長 多岐にわたる様々なご意見をお寄せいただきましてありがとうございます。

私どもが示した見直し修正案につきましては、小金井市が目指す保育行政の全体像が見えないということ、それから具体的な施策が欠けている、見えないことと、大きく加わった点、そしてもう一つは、話の、説明の仕方、出し方があまりにも唐突であって拙速であるということを感じざるを得ないと、こういった総括的なご意見だったというふうに思います。

修正案につきましては、実に多様なご意見をいただいておりますし、私どもとしても今日8回のうちの4回目でありますけれども、反映できるものはしっかり反映しなければいけないと思っておりますし、小金井市の保育の今後のビジョンを統制、それから、この修正案に対する具体策が見えない。例えば異年齢保育につきましても、もっと具体的な対策、もちろん、今までと同じことができない、環境が変わってしまうということがこれは否めませんので、それはもう率直にそのとおりでありますけれども、では、本当の意味で、子どもたちの目線に立ってどういったことができるのか、もっとより具体的なものを示すべきだというご意見もいただいておりますし、今後の検討の中で小金井市の保育の今後のビジョンや具体策については、より多くの方々にご理解をいただけるように検討をさせていただきたいと思っております。

少なくとも、小金井市すこやか保育ビジョン、小金井保育の質のガイドライン、また、のびゆくこどもプラン、こういった計画は策定をいたしました。そして、大方これだけのたくさんの認可保育園が誕生してまいりましたし、小規模もあります。来年4園開設し、今後も人口が爆発的になる想定外の環境になれば別ですけども、大体、小金井市

の保育園の開設状況というのは、かなりの落ち着きを見せてきているとは思いますが、なので、そういった地域の事情ということを私たちは把握しておりますので、策定したま  
ずはこのビジョンとガイドラインを実践していくために私たちは、難しい、本当に大きな課題であることは重々承知しておりますが、しかし、子どもたちのためにも、これは  
成し遂げなければいけませんし、じゃあ、どのような保育行政を提供していくのかとい  
うことについては、のびゆくこどもプランというこの計画をもって保育の量的な部分、  
サービスの内容については、しっかり引き続きお示しをしまいたいと思います。全  
体像や具体策が見えないことについては、しっかり受け止めさせていただいて、その改  
善には努めてまいりたいというふうに、まず今日の段階ではお答えさせていただきたい  
と思います。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。

○参加者 ごめんなさい。1個だけちょっと質問なんですけど、今回0歳児募集が募集しないと  
されてから変更とかどういった理由で。

○平岡保育政策担当課長 0歳児の募集の件ですけれども、私たちのほうとして、4月に51人、市内  
全体で空きが出たというところで、公立保育園で今まで募集の数を調整をかけていたと  
ころについて、さらなる調整をかけるということで内部で検討をしてきたところでは  
す。その結果、5園の中で調整をするという考え方もあれば、一部の園の募集を行わないと  
いう考え方もあって、最終的にその二つの園の募集の0歳児の募集をしないという調整  
をさせてもらいたいというふうに一度内部で決めた状況がありました。

ただ、それがこの方針案の説明するタイミングと近い時期に決めていて、同じように  
説明をさせていただいたこともありましたし、結局そこで募集をしないということで、  
こちらのプランが通れば、追いつくんですよねというようなお話もありましたので、私  
のほうもきちんと分けた説明がし切れなかったところがあったところは、まずいけな  
かったなというふうに思っています。

そういった中で、急過ぎる。止めるのは影響が大きいというお声がとても大きかった  
ということと、そもそもそれ以前にこちらの本体のほうの説明自体が皆様とお話ができ  
ていなかったのも、そういった、こちらとしては、お伝えし切れなかったことがい  
っぱいあった中で、募集を決めなければいけない時期を迎える状況になったもので  
すので、これについては、このままさせていただくのはいけないという結論になりまして、  
0歳児の募集を止めるという調整の仕方については、来年の4月については行わないと

いうふうに変更をさせていただきました。そういった事情があります。

いろいろと私の説明がよく分からないとほかでもよく言われますので、そういうことはあったと思うんですが、どちらにしましても私たちとしては、やはり調整という名の下に募集しないというところまで踏み込むのは、やはりこちらとしてもいろいろ検討をしたつもりだったのですが、影響が大きかったという認識は、今回の判断の中には、多く含まれているということだけはお答えできると思います。

○西岡市長 結果として、0歳児の募集については、来年は行うということ、これが最初に示した状況とは変更をせざるを得ないような状況になってしまったこと、そもそもそういった提案をしたということ自体に課題があるということは、十分認識しておりまして、市長としては、深くおわびを申し上げたいと思っております。

○参加者 ありがとうございます。今の話だと廃園案と直接関係があることではなくて0歳児の空きが51人いたということで、そうすると廃園案がそれにひきずられて0歳児の募集を行わないことをやめたことによっても変更したとそういうことはないということでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 おっしゃるとおり、募集の調整と定員自体を減らしていくという今回のプランというのは、手続的にも別だというふうに思っています。ただ、園が同じだったということと、募集をしないというところまでいってしまうのは、やはり募集の調整の範囲の中でもかなり影響が大きいというところではありましたので、ただ、募集の数については、毎年決めさせていただいている状況があるものですから、募集を毎年何人募集をするかというのは、毎年毎年10月までに市の中で決める。この案は、この案として皆さんにご説明をして、今後どう進んでいくかというのは、ご説明をしていながら状況を見ながらというふうになるので、全く別ということになります。

ただ、はっきりここで断言まではするのは難しいんですけども、やはり、募集しないというところまでは、ちょっと調整をするというのはとても影響が大きいというのは市役所のほうとしても、今回この件で大きく認識をしたということだけは言えると思います。

○参加者 分かりました。ありがとうございます。

○三浦保育課長 ほかによろしいですか。

じゃあ、その前の方。さっきからすみません。お待ちいただいて。

○参加者 座ったままで失礼します。けやき保育園に通っています●●●と申します。よろしく

お願いします。

まずは、説明会を開催していただきましてありがとうございます。あとは、コロナ禍の中、いろいろ保育についてもご配慮いただいて感謝をしております。

ただ、すみません。今回の廃園につきましては、いろいろと性急だなというふうに正直感じておりました、幾つかご質問と意見をさせていただきたいと思っております。ちょっと時間がないので、早口な質問になりますが失礼します。

1点は、わけたけは検討というふうにございますが、継続の目はあると思ってよろしいのでしょうか。ここを全く明確に書かれてないんですけれども。すみません。私ちょっと怒っているのですが、あらゆる可能性を排除しないというところに、継続の目がないかったというびっくり発言が先日の、厚生文教委員会でしたか、市長のほうからございましたが、継続はあり得なかったというような趣旨の発言をされてましたよね。これ多分もう、今まで運協や五園連また公立保育園に通っている保護者の中では、初めての言葉だったかと思っております、あらゆる可能性を排除しないというのは、継続も普通あり得たことと思うんです。

ここで伺ったのは、わかたけの検討という中に継続という部分は入っていらっしゃるのでしょうか。

2点目です。すみません。今回の質疑の意見書のほうについてもありがとうございました。いろいろ回答をいただきまして、本当にこちらも大変だったと思うんですけれども、前原地区については空白地帯という認識が保護者にも、保育課さんにもあるということで、これは私は、同じ市内で保育サービスの差ができるということは非常に問題だと思っているんですけれども、それを前提にしても、それでも公立園を廃園しなければいけないのでしょうか。老朽化の問題があるということは重々承知をしておりますし、市政の財政難というのも承知はしております。大変な中とは思いますが、地域的な面というのは考慮するに値するのではないかなと個人的には感じております。

3点目です。民間園との人員の調整、定員の調整ですね、につきましてありましたが、そうすると公立園はゼロということも頭にあるのでしょうか。

4点目です。すみません。市は、先ほど西東京だったか東大和だったかの公立園を廃園されている地区に視察に行かれたというふうに伺っております。もちろん、お手本にするべきところをするという気持ちは分かるんですけれども、例えば、お隣の武蔵野市のほうでは、公立園を継続するという案を2020年に出されております。もちろん、何

園だったかな、何園かあった園を5園に減らしているという経緯はあるのですが、それでもいろいろな検討の結果それ以上の園数を減らして継続する方向にしたという話合いが持たれたようなんですね。そういったところの視察等はされていらっしゃるのでしょうか。

あともう一点です。すみません。確認です。支援が必要な子に対しての対象の数は減らさない。11から12に上げるというふうに伺ったんですけども、支援が必要な子というのはいろんな面で、例えば、身体的に、精神的にいろいろなところであると思います。ご家族のいろいろな面から交通という大きな問題点がいろいろなところに出てきたと思うのですが、今回の調整によって遠くなるご家族とかに対する配慮と言いますか、例えば今、公立園も駐車場はないと思うんですけどもそういったところを整備するとか、そういったお考えはあるのか。あまりにも数だけの話がされているような気がしてならないんです。11を12に増やすからいいでしょう。もちろん数の面はそれで、今でも苦労されて通っている方はいるので、一律で配慮を提供しようというわけではないかと思うんですけども、その前原町地区を含めまして、家庭からの保育が可能な距離。例えば、小金井市はそんなに広い市ではないんですけど、端から端までは結構かかるので、そういったところをある程度配慮というか今後廃園の案をつくるにあたって考えていただけないかなという気持ちもあります。

あと、すみません。1点、これは質問ではなくて意見なんですけれども、私、これはすごく保育の質という点では、保護者が求めているものを保育課様、市長様のほうで考えている内容と何か相違がある象徴的な話かなと思ってちょっと感じたんですけど、質疑の中の289項に園庭の話が出たんですね。市からの回答に園庭があるでもお散歩にいつているの、園庭がなくても問題はないんだと書かれています。ビルに保育園とかが入っている中で、園庭が必ず必要と市としては言い切れないという実態は分かるんですけども、そのような認識で保育の質を認識されるのは、若干不安があるなと思いました。

私は、子どもを入れるときにビルの中にある保育園も何件か見学に行きまして質問をさせていただきたいと思ったんですけども、皆さんはやはり園庭があればさらにいいですよという前提をつけられて、ちょっとこういった環境なのでできる範囲でやっていますと工夫されて保育していただいていた。もちろんあくまで説明会ベースの話なんですけれども、そういった中で、園庭の有無は保育の質には全く関係がないみたいな

ことを質疑応答されてしまうと、ビルの園に通わせている方も、園庭がないところをい  
いと思った方はいらっしやらないと思うんですよね。そういったところも頭の片隅にお  
いて考えていただければなと思います。以上でございます。失礼しました。

○三浦保育課長 質問が合計5点とご意見でした。お願いします。

○西岡市長 ご質問、ご意見をいただきまして、ありがとうございます。

市の進め方が拙速だという感は否めないというご指摘はしっかり受け止めさせていた  
だきたいと思います。

前原町地区に保育園が少ない。主に、前原町、坂下地域と言いましょか。前原の現  
地域ですね。その地域性のことは十分認識して、もちろんおります。それから、わかた  
け保育園につきましては、ここに書いてございますように段階的縮小から廃園へという  
ことの対象園とはなっておりますが、今後の社会情勢、2園の段階的縮小の状況及び市  
内保育ニーズなどの状況などを踏まえつつ、今後決定することとするというふうに明記  
をさせていただいております。

したがいまして、ご指摘の地域性のことは十分理解はしておりますけれども、小金井  
市の公立保育園、保育の置かれている現状全体を見ながら、その実施状況を実施時期等  
については考えてまいりたいというふうに考えております。したがいまして、現時点で  
はわかたけ保育園もこの対象になっていると当然ありますが、その実施時期については、  
2園の進展状況を見ながら、そして保育全体の状況を見ながら考えていきたいというこ  
とでございます。

いずれ公立がゼロになるということはあるのかということですが、考えておりま  
せん。私としては、2園継続をさせていただく。その2園で東小金井エリア、武蔵小金  
井エリア、また、この中に明記されている様々な機能役割というものを発揮していきたい  
と思っておりますので、最終的にこれは20年後か30年後かは分かりませんが、いず  
れはゼロにしていくという考え方は全く持っていません。この2園で、小金井市と一緒  
にその役割を果たしていく保育園だと思っています。

それから、他市の事例の研究などについてもご意見をいただきましたが、担当からご  
答弁をさせていただきます。

最後のご意見だったのですけれども、市長としては、園庭はあったほうが望ましいと  
考えています。もちろんです。しかし、駅前の保育を希望する方がたくさんいらっしや  
ることも事実なんです。私は、選択は自由ですから、たとえ駅から遠くても環境を重視

する方もいらっしゃる、あるいは、公立、民間問わず、いわゆる保育指針というものを大事にする人もいれば、家から近いところを選択する人もいれば、この選択の幅は様々です。そして、この間、選択肢はたくさん広がったと思います。相当の数の保育園が誕生しました。しかし希望をする方々のいろいろなニーズを見ていますと、やはり駅の近くが望ましいと。駅の近くに保育園を造ろうと思いますと、どうしても土地の確保でいろいろ課題がありますので、そういった意味で園庭のない幾つかの、それは認証さんとか小規模さんでありますとかありますが、皆さんそれぞれがやはり子どもたちの成長のことを考えてお子さん、親、他園との交流や、あるいは近くの例えば畑とかを活用したり、近くの公園などを活用しながら、いろいろと年間スケジュールを立てていただきながら、子どもたちのために頑張っていたいただいています。

小金井市もそういった民間の方々にも全力で協力をしていきたいと思っています。公園の少ない地域もあつたり、公園から距離があつて、ちょっとお散歩が心配、特に最近では交通事故などが発生していますから、子どもたちの安全の確保、これがもう何よりも重要だと思っています。

しかし、園庭がなくてもいいと思っております。このことははっきり申し上げます。園庭があつたほうが私は望ましいと思っています。しかし、いろんな事情で小金井もちょっと都会的でちょっと田舎的なんて言われたりもしていますが、東京の都市部であることには変わりがないのですが、駅周辺の保育園を開設した場合は、希望は高いのですが、広い園庭のある保育園を開設することがなかなかできないという現状があります。そこは、まさに課題だとは思っております。

○平岡保育政策担当課長 ほかの自治体ということで武蔵野市なんですけれども、おっしゃるとおり大分前からの取組というところになりますので、私、実は5年目になるんですけれども、それより前の代にお話を聞きに行ったことはあるかなとは思っています。ただ、やはりやり方がかなり独特な状況だったところもありまして、なかなかまねをするのが難しい。いわゆる子ども協会というものを新たに設立し、という辺りがかなりほかでは例を見ない状況だったかなと思つていまして、伺つたことはあるとは思つんですけれども、ちょっといろんな面で難しいというような話だったかなと思つています。

東久留米市に行った一番の理由は、今まで実は、段階的に閉めていくという手法についてあまり私どものほうで認識をしていなかったものですので、です、行かせて聞かせていただいたとそういうところはあります。

あとは、参考ですけれども、同じく事業団を立ち上げてというようなやり方をしている自治体もありましたので、国立さんなんですけれども、国立さんにもお話は伺いにお邪魔した経緯もありますので、廃園だけピンポイントで行ったということではありませんで、そこは付け加えさせていただきます。

あとごめんなさい。障がい児保育の話がありました。障がい児保育なんですけれども、拡充というところは確かに入れているんですけれども、1人増えればいだろうという考え方ではなくて、園の数が減っても枠の数は減らさないようにしたいというのが本音です。ですので、1人増えたから拡充だというふうにちょっと言いたくはないのですけれども、ただ、こちらとして拡充のメニューとして一つ入れてありましたので、ちょっと矛盾する答えになるかもしれないんですが、思いとしては、園の数が減っても枠の数は減らさないという気持ちから入れさせていただいています。

○参加者           ご回答ありがとうございました。

○三浦保育課長    ありがとうございます。

あと、手を挙げていらっしゃる方。

○参加者           今日は、ありがとうございました。私から3点ほど質問します。

今回このように説明会を設定いただきましたけども、我々市民の声は、どうやってどのように反映されるのか、ここで聞いて終わりなのか、それとも今後有効な話に使われるのかその辺を知りたいです。

2点目ですが、これは、意見なんですけれども、いろいろ公共施設ですとか公共設備の市の予算がないとかというのはあると思いますが、正直小金井市の本庁舎あれ何で残っているのか意味が分からない。私、小金井に来て13年ぐらいたちますけど、いまだに夜間窓口や休日窓口くらいにしか使われてない。あんなのを残して。歴史があるかもしれない。ただ保育園にも歴史がある。なので公共設備一つの必要性についてももう一度みて、提案していただけたらと思います。

あと3点目、これも意見になりますが、もし保育園が廃園となってしまったとして今のところは跡地についてノープランになっていますが、さくら保育園は、私の子どもがさくら保育園なんですけど、去年、桜の木を切って、新しく植えたばかり。で、次の年になって廃園になってしまうとばあになる。何のために植えたのか。その木をまた切っちゃう。なので、今のところノープランかもしれませんが、子どもたちのためになる有効な使い方をしていただきたい。あっさり住宅にしてしまう、そういうがっかりするよ

うなことがないようにしていただきたいと思います。以上です。

○西岡市長 貴重なご質問をいただきましてありがとうございます。

多様なお声をいただいておりますので、市としては、保護者の皆様6回、そして市民の方々対象2回、合計8回、今日はまだ4回目で渦中になります。いただいたご意見は全て記録させていただいておりますので、そういったものを市に持ち帰って検討をいたします。そして反映できること、実現すべきこと、必要なことについては、取り組めるように私たちは、努めていく責任があると思っておりますので、ただ聞いておしまいということではもちろんありません。皆様方からお声をいただくということは、当然、改善していきたい、前進させていただきたい、こちらにもいろいろな思いがありますけれども、お互いに向き合って、声をお互いに発しながら、この方針案の、市としては作成した側でありますし、そして公立保育園の運営主体でもありますので、その運営主体としての責任、市政全体の責任を果たしていけるように努めてまいりたいと考えております。

公共施設です。本庁舎がなぜ残っているかということですが、小金井市役所の本庁舎も築54年目を迎えております。分散状態でいろんな課題を抱えております。そして、第二庁舎は28年間ずっと賃借で借り続けています。年間の賃料が約2億4,000万円という状況です。自前の庁舎ではありません。

庁舎建設予定地は、平成5年に119億円もの税金を投入して購入したんですが、全く暫定利用で約30年間、その庁舎建設予定地は庁舎を建てるために買った土地ですけれども、庁舎建設が実現してきませんでした。庁舎は、行政、福祉、防災の拠点、でも小金井市が目指している庁舎は単なる庁舎ではなくて、既に閉館してしまった福祉会館という、いろいろな大事な福祉施設が入っている複合施設、これがもう今、老朽化によって耐震改修もできないという状態でしたので緊急的に閉館をしました。その直後に私は市長に就任しているんですけども。その直前に市長に就任して、残念ながら閉館しております。なので、その福祉会館というものも複合施設として庁舎と一体で建設をしていきたいとの方針です。

本庁舎は、今なぜ使い続けているのかということですが、現在ある本庁舎の中には、どちらかというと財務部、企画財政部、総務部、議会の傍聴の市民の方々もいらっしやいますから、重要な議会棟があるんですけども、行政上の市民の方々がよくお越しになる届出とかそういった部分については、基本的には第2庁舎、8階建てのビルがあり

ますけれども、こちらに集約しております。しかし、ここは28年間ずっと賃借状態という状況でございました。そういったものを解決するために、新庁舎仮称新福祉会館の今設計の作業を進めているということでございますので、私としては、早期の解決をしていきたいというふうに思っておりますので。しかし、本庁舎の機能、4階建ての建物には、非常に重要な施設が入っているのも事実でございますので、これを新しい庁舎が完成できるまでの間は使い続けていく施設になるというふうに考えております。

跡地の利用についてでございます。売却、そこを市が売って、いわゆる民間の建物が建つということは私は全く想定しておりません。考えておりません。公共施設として長い間、保育園として利用してきた跡地でございますので、公共用地として市民の方や地域の方々にとどのような施設として利用していく方策が一番いいのか、このことを検討させていただきたいと考えております。それは、やはり何か新しい施設、具体的なものがあるから、今回このような計画を示したわけではないので、これは、順番的には、この段階的縮小の後の検討にはなりますけれども、令和10年3月31日までですから、令和10年4月1日以降、この施設がどのような形で市民の方々に有効に利用されるのが一番いい方策なのか、このことはしっかり検討してまいりたいと思っております。

老朽化している桜、小金井は、小学校、中学校、いろんな公共施設に、これはちょうど今、市が誕生して63年目です。たくさんの桜を植えてあってかなり老朽化してきました。台風が来るたびに枝が折れたり、倒木したり、大変なこの数年なんですけれども、子どもたちと桜を植えてくださったこと、その桜を大事にしなければいけないと思っておりますが、少なくとも来年切るということはもちろんありません。しかし、令和10年3月31日までということであることはどうかご理解をいただきたいと思っております、その後の施設の有効利用の在り方にもよるところかなというふうに考えてございます。

私からは以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

ちょっとすみません。時間のほうが45分ほど過ぎてまいりましたが、今日まだご質問という方。

○参加者 これまで廃園をした後の、廃園する中でのプロセスもしくはその後についての具体的な様子などが中心だったと思っております。これまで説明等々を伺ってきて一番よく分からないのが5園は維持できないのは、なぜできないのか。ここについては、具体的なものが何も出てきていないというふうに感じています。ここまで財政についてお話をされ

ていたんですけれども、もし財政が困難であれば、例えば、公立保育園を維持するためにはA案、B案、C案があつて、その中からこういうふうには検討をしてきたけれども、C案である廃園が一番望ましいとか、そういったものは出てきて当然だとは思っているんですけれども、今回、なぜかその維持という選択肢がなく、唐突に廃園が出てきてしまった。しかもその廃園については表の場で一度も検討をされてきていないので、市の内部で何をもってどう判断してきたのか全く見えない状況です。

それについては、ちゃんと資料と一緒に説明をしていただきたいので、今、この場で口頭で説明をいただいても多分分からないので、資料請求という形にさせていただきたいです。なので、これは後日またこういう場を設けていただくかはちょっとよく分からないんですけど、文面に反映したからいいですかではなくて、ちゃんと説明する場を、市長は対話という言葉をよく使われていますけれども、本当に対話を重んじていらっしゃるのであれば、ちゃんとその資料とともに市民、保護者が納得いくように説明をしていただきたいなというふうに思います。

あとその他の細かな点なんですけれども、それに加えて、今回これまで民営化の案を保護者に提示してきたと思うんですけれども、ここから廃園に急に転じた理由が不明瞭です。いろいろ書いてあるんですけど、これまで小金井市の課題として挙げられているのも民営化のときに説明されてきたことと全く同じことが書かれていますね。強いて言えば、コロナのことをおっしゃっていたりとか、保育士が一斉に交換するとか。それだけなんですけど、それだけでいきなり廃園にするんですか。もしそれがまかりとおるなら相当おかしいことだと思うんですね。今、いろいろな方がおっしゃっているとおり公立保育園が保護者にとっても、子どもたちにとっても大事な市の財産であることには変わりはないので、財産を処分しますということなので、個人で言えば、破産に近い状況だなと思うんですけれども、それをじゃあ、納得しますねというふうになるためにはそれなりの根拠が必要だと思います。

なので、そもそも5園を維持できない理由、なぜ3園を民営化でなく廃園しなくてはならないのかということに加えて、今回急に廃園に転じた理由について、これも改めてご説明をいただきたいです。それに当たっては残す園の数の根拠を説明する。今、話を聞いたら東小金井駅と武蔵小金井駅と駅が2つあつてという話なんですけど、それっておかしいですよ。ここまで出てきたお話であつてこの数年間で保育園の数が2倍以上になったというお話がありました。小金井市の公立園の役割があるのならその役割の

中に市の保育施設全体に対する何か業があるわけであってその役割も保育園の数が変わると当然負担が大きくなると思います。それを、施設の数じゃなくて、人の数だとおっしゃっていたんですけど、それほど詰め放題なんですか、保育園って。それも何だかおかしな話だと思うので、その辺りについてもしっかり数の根拠についてご説明をいただきたいです。

あとは、これは数年前に私が要求して、未だ出てきてないものなんですけど残る2園に先ほどこの障がい児の話があったんですが、障がい児の定員を増やすというところで、その定員を増やした場合に現状加配の先生が非常勤の先生だったと思うんですけども、もし雇えなかったらどうなるのか。障がいのあるお子さんが増えて配属される先生がクラスに入ってくると、1クラス大人の人数がかなり増えることになると思います。そうなった場合に、今やっている保育は継続できるのか。その辺り全く公立園の保護者として全く理解ができないので、その辺りについてどんな検証を行って大丈夫だったのかというところを出していただきたいと数年前に申し上げてはいますが出てきていないのでそれについても資料と併せて説明をお願いしたいです。

あと、今回廃園の目的の一つとして、公立と民間の連携みたいな話をされているんですけど、現在、連携だけでいえば、今お金を掛けなくてもすぐできることなんです。その連携がまだできてないよねという話は、保育検討協議会の段階でも出ていたにもかかわらず、その後一切に何もやっていないのにこうやりますと。これだけの人数があればできるんですっていうので、やっぱりおかしな話だと思うんですね。やっぱりどこからスタートかというところまで保育園を何とか減らしたい。それが多分一番の目的であって、そのつじつまを合わせるためにやんやかんやと後づけしている印象がどうしても拭えないので、本当に保護者なり市民を説得したいのであればその裏づけのきちんとある資料を改めて出してきちんと説明していただきたいです。まずは、市長、今回に関しては、これまで民営化のときは保護者が納得するまで説明をなさるとおっしゃっていたんですが、今回とにかく説明会があることしかおっしゃらない。ということは、今、これだけいろいろな疑問の声やこういう説明の仕方はないという意見が出ていても、それを無視して進めてしまう可能性があると思っています。それはどうか絶対にやめていただきたいです。

以上です。

○西岡市長      それでは、幾つか資料として出していただきたいということで、4点ほどご請求をい

いただいたところであります。いただいたご意見はご意見として持ち帰らせていただきたいと思っておりますが、今般は説明会ということ、そして一人でも多くの方々からのお声をいただきたいということで開催をしております、個別の資料要求に対してどのように対応をしていったらいいかということについては検討はさせていただきたいというふうに考えているところでございます。まず、冒頭、私からお伝えを申し上げさせていただきます。

まずは、8回の説明会がございまして、そこにまず臨ませていただいて、今渦中にありますので、本日の4回目の中で出された意見ということで、すぐ持ち帰らせていただき検討させていただく中身、それから、そのいただいたご要望についても資料請求の出し方とかもあろうかと思っておりますので、ちょっと今この時点で明確なご回答はちょっとできないのかなというふうに思っております、ご理解をいただきたいと思えます。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 そうですね、まずは、説明をするための場だというのが分かっているんですけど、それなら何でも100点満点の説明ができないのかということに尽きると思うんですよ。その廃園を確認した後にどうするかについてはもちろん具体的なものがばちっと決まってる、これなら誰が聞いても納得いく内容ですねとなって初めて説明会をするべきであるのに、何でこんな抜けた状況でしてしまうのか。拙速だという声もたくさんありましたけど、何でそういったところをすっ飛ばして、どうにかこうにか、なし崩し的にやってしまうという印象しかないんですよ。それ私たち保護者だと思うので、今日も子どもと過ごす時間を削ってここに来ているんですけど、その時間を割く価値があるのかということ、全然違うと思うんですよ。これまで言ってきたことの繰り返しで抜けてきて運営協議会等で求められたことも何だかんだと出せなかったものについてどうにかこうにか伏せて、やり切ってしまうという姿勢しか伺えないので、そこは改めていただきたいです。

個別の資料が出せるか出せないか、そういう話もあるところですけど不十分な説明会をしたのは、市のほうなのでそちらから説明をもって対応いただきたいです。

以上です。

○三浦保育課長 ありがとうございます。

まだ一度も発言をされていない方で発言をされたい方はいらっしゃいますか。

じゃあ、お願いできますか。

○参加者

さくら保育園に通わせている●●●と申します。

今日の説明会に参加するに当たって、事前に保育課に確認したんですけども、今日の説明会というのは、どういう方向性でやるんですかと事前に聞いたんです。廃園が決まっていてありきでその説明だけでされるのか、それとも、みんなから意見を聞いてそれを持ち帰って、廃園を回避する方法とかもあるのかと事前に聞いたところ、みんなの意見を集約してよりいい方法を模索するというふうなことで、第2回、第3回の説明会というのを考えていて、よりよい方法を検討するというふうに聞いたんです。保育課さんから。今日の話を知ると、廃園ありきで進められているような感じで保育課さんから聞いた話と違うんですね。先ほどほかの保護者さんからご意見があったんですけども、第2回、第3回の説明会を開いてそこで財政状況の資料とかを出してクラウドファンディングとかの話とかもありましたけど、そういうふうにもう全部検討してもうどうしようもないというふうになった場合に廃園にしてほしいんです。何かもうちょっと方法を模索する場をいただきたいというのがありまして、今だと廃園の話がいきなり出てきて、2年ぐらい前から民営化されるという話を聞いてどうなるのかなと思っていたのに、いきなり廃園の話になって、今ちょっと小金井市に住んでいてすごい残念な気持ちなんですけど。保育課さんから意見を聞いてよりよい方法を模索する場にするというふうに通っていたので、そういうふうにしていただきたいという気持ちがあるんです。いろいろ検討してきた結果、駄目かもしれないんですけども、よりよい案が出るかもしれないですし、もうちょっとほかの保護者さんとか市民の意見を聞いてより検討をするという場をつくっていただきたいです。

以上です。

○西岡市長

貴重なご意見として承らせていただきます。

当初から私自身もこの説明会、皆様方と1回だけと決めて臨んでいるわけではもちろんありません。先ほどから何度もお答えをさせていただいているんですが、いただいたご意見を持ち帰りますし、今後、私どもも皆様方と引き続きこちらから宿題をいただいたこと、検討したいこと、いただいたご意見を持ち帰って、改善につながるようなこと、当然それはやります。

そして、私たちとしては、この見直しの方針案を策定する。そして、公立保育園の実施主体として、将来に責任のある最終的な判断をする立場にあります。したがって、

改めて申し上げますが、いろんなご意見をしっかり持ち帰らせていただきます。それですから、今後の具体的な在り方については、考えさせていただきますけれども、今日1回だけ声を聞いて、それで一切お会いしないとか、そういうやり方は、私としては、考えておりません。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

それでは、2列目の方。

○参加者 すみません。長時間にわたりましてありがとうございます。

私自身も頭の中が本当にいっぱいになるというか、いろいろ聞きながらなんとかするか正直あるんですけども、本当にお答えいただいて本当に大変だなと思っています。ありがとうございます。ただ、せっかくここに来させていただいたので、本当に単純なこのタイミングで聞くことではないかもしれないですけども、単純な質問で、地域で新しく認可が2園増えるということだったんですけども、この2園というのは、くりのみと比べてここがいい、だけどこが課題というその具体的なところを教えていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○平岡保育政策担当課長 若干事務的なところなので、来年の4月開園する4園と、くりのみを比べてというところですね。新しいというような話は言うまでもないかなと思いますが、皆様が多分一番気にされている園庭の部分については、造る場所の関係で、くりのみほどの園庭を用意するというのは難しいという状況はあります。あとは、基本的には、新しい保育園であるということになりますので、それ以外の部分については、確かにビルの2階の中で保育室等があってつくる園もあれば、一から建てる園もあるというような状況になっています。

それ以外の部分で、もし明確な違いがあるというところで申し上げますと、1歳から5歳までのというのを、4園のうち二つ、今回はできることになっていますので、0歳は最初からないというところは一つ大きな違いがあるというふうに思っています。

それ以外については、運営する法人が市と違う方針で四つとも違う法人ですので、それぞれの法人の保育理念がありますし、そういった形の保育のやり方がやはりそれぞれ違いが出てくるというふうには思います。

以上です。

○参加者 例えばですけど、私がくりのみいいなと思った理由が本当に園庭なんですね。駅前で

駅に近いのは魅力的だなと思うんですけども、そこに魅力を感じる方がいらっしゃれば、何というか、ここに子ども一人もいないですけども、やっぱり保育園は子どもたちの場所なので、ここで意見を言うのは子どもたちの意見を持ってきている保護者かなど。やっぱり公園に行くというのも楽しいんですけども、目の前に遊び場があって、ちょっとしたときにぱっと出られて、というのは子どもたちにとってもすごく魅力的ですし、やっぱりそういうところを一番ニーズとして持ってきて園を選んでいる方もいらっしゃると思うんです。さっき、市長の話の中でも園庭がなくなるというのは一つ課題として捉えていらっしゃるということで、そういうふうに思っているのはすごくありがたいなと思うんですけども、じゃあ、これが課題だからそれをどうしようと思っているとか、やっぱりその辺りも聞きたいなと思うんですけども、現時点でそこら辺は何かご意見ありますか。

○平岡保育政策担当課長 まず、私のほうから、今回の実は選んだ四つの園については、くりのみほどの広さはなくて、ちょっとこちらの役所的になりますけれども、園庭としての基準というのがある、その基準は満たないんですけども、一応お庭は造ってもらうように努力をしてもらっている園が四つのうち三つがあります。どうしても園庭も含めた場所の確保ということになると、駅から遠いからといって必ずしも持てるわけではなくて、過去の例では、住宅街にあるということで、当初園庭で予定していたところが縮小されてしまった例というのもありました。

ですので、私たちもちょっと条件としてつけてしまうところまでいってしまうのは、とても難しいなというふうに思っていて、先ほど市長からもあったと思うんですけども、より望ましいというような視点で見させていただいていたというのと、やはりいまだに駅前のニーズがかなり高いというのもこちらとしては無視できない状況もあったものですから、やはり駅前の立地というのは、こちらとしてちょっと無視できなかったというのは申し訳ないんですけどもあると思っています。

あとは、おっしゃるとおり園庭が十分な広さがない園が多いという中で子どもたちをどうするかというところをご懸念のところかなというふうに思っているんですが、なかなか市内で新しい公園を造っていくというのも、別の部署ですけども、ちょっと難しいところがあります。そういった中で、そんなに大きくはないんですけども、ここ何年かでぽつぽつとは、その地主さんだったり、民間さんと協力をしながら造ったりはしているんですけども、今、こちらのほうとして考えられるのはそういう状況という

のがあります。

確かに23区のほうはとても深刻で、どこかの民間会社のグラウンドを借りてというような話を23区の、中央区ではないんですけど、中央部分にある区とかでは見たことがあるんですけども、ちょっとそこまで小金井としてやるほど土地がないかというところではないとは思ってはいるんですが、今、明確にお返しできるような部分がないのは申し訳ないんですけども、現状をお伝えするとそういう状況です。

○西岡市長

貴重なお声をいただきましてありがとうございます。

子どもたちがすこやかに育つ環境として、もちろん外遊びやあるいは園庭できること、あるいは、お散歩もその子どもたちの成長へ必要な要素と思いますし、また、園庭以外の場所での遊びも大事だなと思います。小金井の場合は南北の大きな公園、野川、また、市の栗山公園、梶野公園などなど、今ある小金井市の公園は、有効に活用していただいて、そして子どもたちの成長にぜひつなげていただきたいと思います。

ただ、どうしても駅周辺の保育園のニーズが非常に高いのも事実です。とても駅前保育園を開設してほしいというお声がずっと強かったです。そういう状況の中で、どうしても園庭機能が十分に果たせない、そういうときは近くの公園とかを活用していただいておりますし、また、土に触れたり、食育の観点から、いわゆる農業とか食べ物とつながるような食育をもっともっと充実してほしいというような声もあって、私もこれは実例ですけども、ある武蔵小金駅周辺の大きな畑の地主さんに、ぜひ子どもたちの芋ほりとか、年間を通じて食育につながるような活動の場をつくってくれませんかとお願いました。快く受けていただいて、今やその畑を使う幼稚園、保育園が二十数園まで広がっていて、主に駅周辺の保育園の方々のようです。

限られた土地で、都心部なので、地方と違って、特殊事情がどうしてもあります。そういう状況の中で、民間の方々のお力も借りて補完し合いながら、また、小金井市が持っている地域の財産、都立公園も含めて、市立公園も含めて、そういったものをネットワークでつなぎながら、子どもたちの成長につながるように、私たちは、今ある資産も生かしながら、引き続き努力はしてまいりたいというふうに考えております。

○参加者

ありがとうございました。今、少し何か具体的なお話が聞けたことで安心しました。多分、やはりこう、先ほども言ったんですけども、今、くりのみ保育園、すごくいいところなんですよね。だから、やっぱり単純になくなってしまおうという気持ちがあつて強いので、ただ、私たちは保護者という視点でしか話ができない。やっぱり市の方はも

つと色々な視点でお考えを持って動いてくださっていることだと思つるので、分からないことがたくさんあるので、わがままばかり言えないのは分かっているんですけども。

ただ、やっぱり子どもたちも健やかな成長の場というのはとても大切な場なので、そういう視点をもって考えていただきたいというところが一番です。今言っていたいたような具体的なこういうところが課題なのでこういうふうにしていくとか、何かこの先できるというか、そういったことをぜひまた伝えていただけると、安心できるかなと思つますので、大変かと思つんですけども、どうぞよろしくお願ひします。

○三浦保育課長 まだ1巡目の方で発言を予定されている方はいらっしゃいますか。一応、一通り皆様にご発言をいただいて、1巡目が終わるという感じだったんですが、あえてこの場でもう一回ご発言したいという方はどれぐらいいらっしゃいますでしょうか。2巡目を皆さんにやっていただくと時間がかかってしまうと思つるので、もう一度、あえてここで発言をしたいという方は、よろしいですか。

○参加者 もうこれで終わりですか。終わりだったら。

○三浦保育課長 じゃあ、お一人だけすみません。はい。

○参加者 跡地は令和8年以降に考えますとおっしゃっていましたが、結局、何か造るんだつたら、それは保育園では駄目なんですかというのが純粹に思つます。

それから、2園に集約して、そういう役割を担って障がい児保育とかつてことで、公立園の役割があるじゃないですかと思つました。公立保育園の大切な役割を明確にするというのは武蔵野市とか西東京市とかそういうところをぜひ参考に、そこを明確にした上で何園必要かはやっぱり具体的に検討したほうがいいと思つます。

すみません。来年の0歳児募集はゼロということですか。来年じゃない、次の次ですね。廃園と調節は全く別というお話があつたので、私は、あのタイミングだったら明らかに一つのものだなと思つますけれども、全く別なのであれば。しかも、0歳児51人いたという空き枠はここで2人くらいに減つたというお話でしたよね。だから、0歳児はまだまだ需要があるということですよ。来年は取りあえず、次年度は募集をするということは伺いました。その次の年度、私1年延伸と聞いていたので、その次の年度の募集は止めるのかと思つたんですけど、それは違つうんですねということを知りたいです。

あと、保育検討協議会でも連携できないと今までも言われていたということで今までも十分課題として分かつていて、今までも課題として分かっていたのに研修がまだできていない状態でこれからやりますと言われても、全く説得力がないなと思つてしまいます。

ぜひ、実践して効果がちゃんとある程度分かっているならば、私たちも納得できるんですけど、何で今までされてこなかったのかなと思いました。これから、やるというなら本当に具体的にプランを立てていただかないと。私は、たまたまいろんなこと素人なのでいろいろやってくれている方はさぞ広い視野で考えてやってくさっているんだろうから、お任せしておけばいいやと私は思っていたんですけど、こういうのを聞くと、本当にお任せしていて大丈夫なのかなと正直、今思っています。ぜひ具体的に今まで課題と分かっていたことをなぜやらなかったのかも教えていただきたいです。

以上です。

○三浦保育課長 簡潔にお願いできますか。

○平岡保育政策担当課長 すみません。ちょっともし飛んでしまったら申し訳ありません。募集の話で反応してしまったので、ちょっと募集の。

跡地についてなんですけれども、先ほど申し上げたとおり、決めていない、白紙ですというのが今の正式な答えになります。ですので、保育園を建てればいいのかというご要望もあるのではないかとはいっていますが、それも含めて今決めていないという状況です。

午前中の会のときにもお話をしたんですけれども、くりのみの代わりを造るからと言うプランではなくて、閉めていくというお話だけのことをお話させていただいていますので、それでは不十分だというご意見もいただいていますけれども、今事実としてお伝えするとすると、そういうお話をさせていただいています。

それから、募集の関係ですけれども、募集数については、毎年10月1日に、今後はなっていくと思いますが、その前までに決めていくということになりますので、調整をかけるということも含めて、それまでに毎年毎年考えるということになります。

一方で今、お話をさせていただいている、こちらの段階的縮小というのは、定員数、キャパのほうのお話なので、キャパのほうを減らすということが仮に決まった場合は、キャパを超えて募集はできなくなりますので、例えばですけれども、令和5年の4月に0歳児の定員をなくすというのが正式に条例も含めて決まれば、当然0歳児の募集はできなくなります。ただ、そうでなかったとしても募集の数というのは毎年決めているので、募集の数は、令和5年4月に募集するかしないかと聞かれれば、令和5年4月は令和4年の秋ぐらいまでに決めますというのが今のお答えになるのではないかと思います。

それから、研修の部分ですけれども、ガイドライン自体をつくったのが3月というこ

となので、このガイドラインを活用した研修というのは、まだできていないというのは一旦ご理解をいただきたいと思います。

その上で、民間と公立の連携がなかなかできていないというのは、以前から課題だという指摘をほかの方からもいただいている、なぜそれができていないかというところはあるかなと思うんですけども、そこについては、園が増えてきているという状況もある中で、合同の連絡会などというところまでまだ進んでいないという状況があります。そういった中で、これまでの中で今までできていたものとして申し上げますと、合同の研修会というのをコロナになる前は多いときは年に2回ほどやっていました。やはり集合で大勢の方々を集めてということになると、なかなか何度も、他市さんでずっともう定期的にやるようなスキームができているところと比べると薄いのは事実なんですけど、やってきた結果があります。

それについては、公立保育園企画で民間保育園さんたちにも声をかけてるのは1回、それから民間保育園さん企画で公立の保育園にも声をかけてというような形で1回ずつというのが、コロナになる前のここ数年の合同研修の実態です。

○参加者 合同の研修会というのはどれぐらいの園が、古参の園はかなり毎年されている。新規園は違いますか？

○平岡保育政策担当課長 今具体的な、去年がコロナでできていないので、ちょっとそれ以前の数字を持っていないので申し訳ないんですけども、古い園も新しい園も参加いただいているケースはあったかなと思います。

ただ、お声かけが例えば園長さんとか主任さんとかではなくて、保育士さんを対象に声をかけているので、園の状況とかによって複数出ていらっしゃる園もあれば、お一人代表で出るようなこともあったというふうに思っています。公立も状況は同じということで。

テーマはそれぞれが決めていたので、発達の部分であったり、そしゃくというか、食べることに対しての方をお呼びしたこともあったかと思いますが、その時々でそれぞれがテーマを決めて、講師の方を呼んで集合でやったという経過はあったと思います。

○参加者 業務として参加ですか。

○平岡保育政策担当課長 そちらのところについては、業務として参加するか自由参加かというところについては、公立については、業務でやらせていただいていたんですが、民間さんの場合は就労規程とか、それぞれの労働契約の規定などもあったりしますので、業務で行っ

ている場合もあれば、自主的な参加の方もいらっしゃるかもしれませんが、そこまでは、ちょっとこちらのほうでは把握はできていない状況です。

○参加者 保育園の役割については、いかがですか。

○平岡保育政策担当課長 先ほど申し上げたのは、公立保育園の役割ということになると、公立保育園がやることというふうな形になるかなと思ってまして、特別支援保育については、公立も民間もやっていただきたいことだと思っていますので、今回のお話をもって公立の役割イコールというふうには考えていません。

ただ、公立保育園としても充実しなければいけないという話を前からずっと言われている部分でありますので、今回、公立保育園としての充実、小金井市全体としての充実と二つに分けさせていただいています。公立保育園も以前から一番言われていたのは、やはり3歳以上というところの年齢制限の撤廃というのが一つの課題になっていました。それから、卒の募集の話で、細かくなって申し訳ないんですけど、卒の募集というのも、以前は比較的オーソドックスだったんですが、わざわざ卒として募集をするというのがいいのかどうかという考え方も園によってはありますので、普通に募集をして、そういう心配があるお子さんについてどうするかというのは、面接させていただいたりなどで、卒ということにとらわれない対応をするという考え方を持っている園もありますので。

ただ、公立は今までのことから、先ほどお話もありましたけれども職員を卒として担当の職員を配置する関係からも事前に卒としての数は確保しておきたいというところがあって、卒の募集というのは続けさせていただいているというのはあります。

○三浦保育課長 よろしいですか。

それでは、お時間も大分過ぎてございますので、以上をもちまして質疑のほうは終了させていただきます。

先ほども冒頭ご案内いたしましたけれども、本日の発言につきましては、個人の名前を伏せていただいてホームページのほうで公開をさせていただくということでご了承くださいと思います。

以上をもちまして、本日の説明会は終了させていただきます。本日はご多忙の中ご参加をいただき、また貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

お忘れ物のないよう気をつけてお帰りください。本日はどうもありがとうございました。